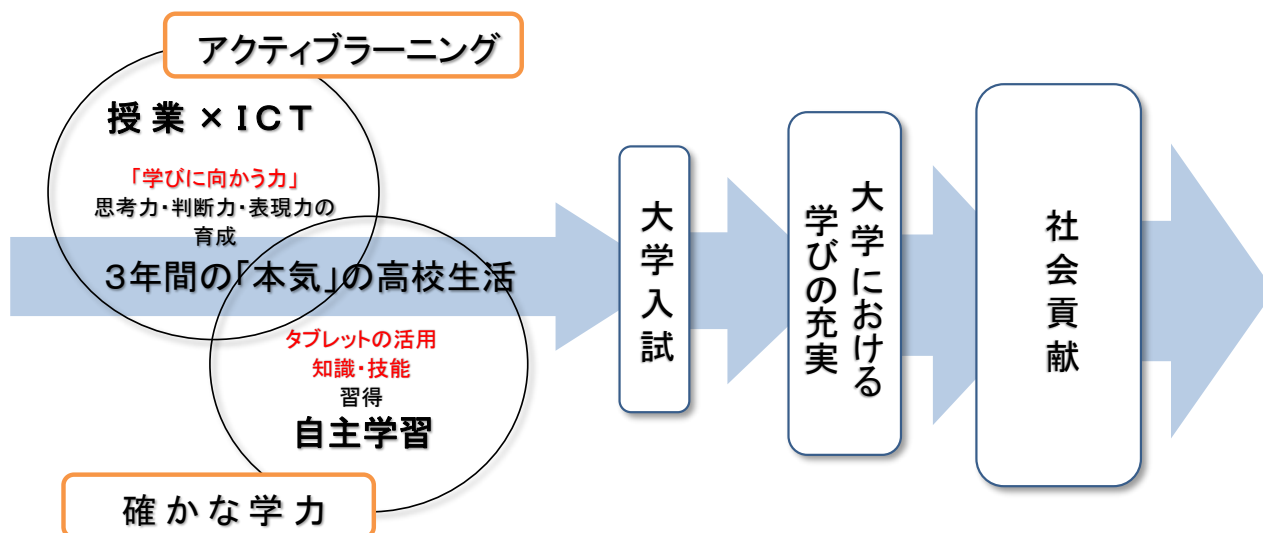


令和6年度科目履修案内 第2学年 目次

		頁
大宮北高校「本気の学習」		1
2年生の学習の指針		2
令和5年度入学生教育課程表(理数科・普通科)		
科目選択・コース選択をする際に		6
<各教科より>	コース・科	
1 国語科		9
	論理国語	10
	古典探求	11
	観点別評価	12
2 地理歴史科	歴史総合	14
	観点別評価	17
3 数学科		18
	数学Ⅱ (文系)	22
	数学B (文系)	22
	SS理数数学Ⅱ	23
	観点別評価	24
	理数	
4 理科	物理基礎	26
	地学基礎	28
	サイエンス化学	29
	サイエンス生物	31
	SS理数化学	33
	SS理数生物	35
	SS理数物理	37
	観点別評価	39
	理数	
	理数	
	理数	
5 保健体育	体育	45
	保健	48
	観点別評価	50
6 英語科		52
	BEST- CLaSS2	53
	論理・表現Ⅱ	55
	英語コミュニケーションⅡ	56
	観点別評価	57
7 STEAMS TIMEⅡ		58
	観点別評価	63

大宮北高校「本気の学習」

教育改革の先進校で学ぶ喜び



北高生は自らが自己の高校生活に「本気」で取り組み成長します。

どんな「本気」に取り組み、自分の高校生活を豊かにしますか？

多彩な学校生活には「本気の部活動」「本気の学校行事」もあります。

「本気の学習」を大切に、「本気の部活動」「本気の学校行事」を生かしましょう。

大宮北高校は皆さんの「本気」を応援します。

授 業

大宮北高校の授業は「学問の魅力」を伝えます。

大学入試に対する表面的なノウハウだけを伝えるものではありません。

自ら積極的に発信し、学ぶことの楽しさを感じてください。

授業を中心とした予習・復習のサイクルを確立することで「学びに向かう力」が育ちます。

希望の大学に進学できる、大学入学後にも生きる「力」がつかます。

ICTを活用した「アクティブラーニング」→「思考力」「判断力」「表現力」の育成

「脱、教え込み授業」→「発信力」を育て、「学びに向かう力」「人間性」を滋養します。

自主学習

大宮北高校では自ら学び、学問を深める力を必要と考えています。

社会に貢献できる人材となるために、自らの「志」に向かった努力が必要です。

通学時間や部活動等によって個々の時間の使い方は変わります。

個人タブレットをどのように活用するか。受信データをどう活用するかは個人に任せられます。

3年間を見据えた学習計画、各学年における学習計画をもとに、

個々の日々の学習計画を構築していきましょう。

苦手科目も克服していけるようにバランス良く時間を確保することが大切となります。

学習計画は担任の先生等との面談を通して確認していきましょう。

理数科・普通科併置による充実した学習システム→互いの「知的好奇心」を刺激・成長

海外交流事業、海外修学旅行等→国際社会に通用する視野を持つグローバル人材の育成

2年生の学習の指針

基本的な姿勢

2年生は、高校生の中核になる学年です。部活動においても、学校行事においても北高の中核として全体の事を考えて行動しなければなりません。しかし、ともすると、生活面、学習面において中だるみにおちいり進路意識が希薄になり易いのです。逆にこの時期をうまく自分をコントロールし乗り越えることができれば、自分の目指す進路実現に近づくのです。

進路実現への方策には
希望を叶える為の十分な学力の裏づけと学費が必要です。

その対策として

- ① 将来の職業についてしっかりした意識を持つ
- ② 充実した高校生活を過ごす。→ 日々の自分を振り返る。
- ③ 保護者と自分の進む道に関して十分に話し合う。資金面も学力があれば特待生制度(入学試験や日常の成績が優秀な生徒に対して、学費の一部や全額を免除する制度)の利用も可能になり資金面において有利になります。
- ④ 定期考査毎に目標を定めて頑張る。
- ⑤ 得意科目をつくる。→ 英語なら更により → 英検2級以上の取得
TOEIC などへの挑戦
- ⑥ 平日の学習習慣の確立 → 1日あたり3時間の学習。

学習の目標

- ① 受験科目の教科書の問題がすべて解けるようにする。
- ② 英単語・英熟語を完璧にする。
- ③ 今年度の共通テストを実際に解き六割程度の正答率をとることを目指す。
- ④ 模擬試験で、1年の1月の偏差値から2年の1月の偏差値で5~10アップさせる。国公立大学でA又はB判定の獲得を目指す。
- ⑤ 得意科目をつくる。
- ⑥ 1年と同様 予習 → 授業 → 復習 の黄金の三角形を維持する。

方 策 …個々の努力目標 PDCA サイクルからOODAサイクルへ

OODA とは、**Observe (観察)**、**Orient (状況判断、方向づけ)**、**Decide (意思決定)**、**Act (行動)**の頭文字をとったものです。これは目標を達成するための要素を 4 つの段階に分け、成功に導く手法です。

Observe (観察)

思い込みや予断を捨て、相手である大学受験を見据えます。
どこの大学で何をどのように学びたいか、どんな大学がある？ 何が違う？
オープンキャンパスに行くことも大切な観察の機会です。

Orient (状況判断、方向づけ)

観察結果に基づき、方向付けを行います。
観察が十分であればより精度が高まっていきます。
今の生活や学習態度を振り返り、日々をこう過ごそうと方向を定めます。

Decide (意思決定)

これからの具体的な学習方針や行動プランを策定します。
観察をもとに方向付けをしてあるので、実効性が増します。
自分の進路希望としっかり向き合い、決断をします。

Act (行動)

さあ実際に行動に移しましょう。

PDCA は日々変わらない環境の中で最善を尽くす方法を探るメソッドです。**理想的な学習方法の一般論**と言えるでしょう。1年生では手順に従って状況分析を行い、自分の状況を改善していく計画を立て実行するサイクルを身につける学習をめざします。

しかし、実際の高校生活では**部活動や家庭環境等、個々の状況を分析し、自分の戦略を立てて実行する**ことが必要です。これが **OODA** です。OODA は、刻一刻と変わる状況に対応できる機動的なメソッドです。時代の変化や個々のニーズに対する即応性が高いと言えます。

PDCA は、安定した環境において人間関係などの心理的要素が入らない場合にその真価を発揮します。一方、OODA は状況に応じて即断するメソッドなので、人間的側面が大きいです。それだけに **OODA は単にメソッドを取り入れるだけでは成り立たず、高校生活の状況、学校の体制、人としての成長から取り組んでいく必要があります。成就するにはある程度の時間を要します。**

PDCA を知り OODA に切り替えていく力が実際の進路実現には不可欠な要素なのです。

様式1-2(令和5年度入学生用)

令和6年度 教育課程表(普通科)

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年			計	
教科	科目				A 1	A 2	B		
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	2	2				12~18	
		言語文化	2	2					
		論理国語	4		2	3	3		2
		古典探究	4		3	3	4		1
		文学国語	4			3			
	地 理 歴 史	地理総合	2	2					5~14
		歴史総合	2		3				
		日本史探究	3			● 5	● 5		
		世界史探究	3			● 5	● 5		
		地理探究	3				○ 4	○ 3	
	公 民	公共倫理	2	2					2~6
		政治・経済	2			○ 2	○ 2		
		(学)公共探究				2	○ 2		
								○ 3	
	数 学	数学Ⅰ	3	3					11~18
		数学Ⅱ	4		4				
		数学Ⅲ	3					4	
		数学A	2	2					
		数学B	2		2				
		数学C	2					3	
		(学)数学探究	2~4				○ 2	4	
	理 科	物理基礎	2		2				10~20
		物理	4					● 5	
		化学基礎	2	2					
		化学	4					5	
		生物基礎	2	2					
生物		4					● 5		
地学基礎		2		○ 2					
(学)サイエンス化学		2		○ 2					
(学)サイエンス物理		2		● 2					
(学)サイエンス生物		2		● 2					
保 健 体 育	体育	7~8	3	3	2	2	2	10	
	保健	2	1	1					
芸 術	音楽Ⅰ	2	● 2					2	
	美術Ⅰ	2	● 2						
	書道Ⅰ	2	● 2						
	(STEAMS Time II 音楽)			(2)					
	(STEAMS Time II 美術)			(2)					
外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3					16~19	
	英語コミュニケーションⅡ	4		3					
	英語コミュニケーションⅢ	4			4	4	4		
	論理・表現Ⅰ	2	2						
	論理・表現Ⅱ	2		2					
	論理・表現Ⅲ	2			2	2	2		
	(学)英語特講	3			3				
家庭	家庭基礎	2	2				2		
主 として 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	家庭	保育基礎	2~6			▲ 2		0~2	
	音楽	演奏研究	2~6			▲ 2			
	美術	クラフト・デザイン	2~10			▲ 2			
	書道	実用の書 2608	2~4			▲ 2			
	体育	スポーツⅡ	2~12			▲ 2			
	SS 理 数	STEAMS Time I	2	2					
BEST CLaSS		1		1					
STEAMS Time II		2		2					
STEAMS Time III		1			1	1	1		
小計			32	32	32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	1	1	3	
合計 (週当たりの授業時数)			33 (34)	33 (34)	33 (34)	33 (34)	33 (34)	99 (102)	
備 考		<p>1年 ●印から1科目選択 2年 ●、○印からそれぞれ1科目選択 3年 (A1) ●、○、▲印からそれぞれ1科目選択。 (A2) ●、▲印からそれぞれ1科目選択 ○印の選択は以下の(ア)または(イ)を選択する。 (ア)地理探究を選択。(イ)倫理、政治・経済を選択。 (B) ●、○印からそれぞれ1科目選択。</p> <p>1年 「STEAMS Time I」 SSH指定校として情報Ⅰ(2単位)の代替 2年 「STEAMS Time II」 SSH指定校として課題研究の内容に応じて選択 理数探究、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、書道Ⅱ(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーションⅡ」を1単位分減単</p>					<p>・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位 ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位</p>		

様式2-2(令和5年度入学生用)

令和6年度 教育課程表(理数科)

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年	計	
教科	科目						
各学科に共通する 各教科・科目	国語	現代の国語	2	2		11	
		言語文化	2	2			
		論理国語	4		2		2
		古典探究	4		2		1
	地理歴史	歴史総合	2		3		6
		地理総合	2			3	
	公民	公民	2	2			2
	保健体育	体育	7~8	2	3	2	9
		保健	2	1	1		
	芸術	音楽 I	2	● 2			2
		美術 I	2	● 2			
		書道 I	2	● 2			
	外国語	英語	英語コミュニケーション I	3	3		16
			英語コミュニケーション II	4		3	
英語コミュニケーション III			4			4	
論理・表現		論理・表現 I	2	2			
		論理・表現 II	2		2		
		論理・表現 III	2			2	
家庭		家庭基礎	2	2			
主として専門学科において 開設される各教科・科目	S S 理 数	SS 理数数学 I	5~7	6		48	
		SS 理数数学 II	7~9		6		
		SS 理数数学特論	4~6				7
		SS 理数生物	6~8	2	2		● 5
		SS 理数化学	6~8	2	3		4
		SS 理数物理	6~8	2	2		● 5
		STEAMS Time I	2	2			
		BEST CLaSS	1		1		
		STEAMS Time II	2		2		
		STEAMS Time III	2				2
小 計			32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	3	
合 計 (週当たりの授業時数)			33 (34)	33 (34)	33 (34)	99 (102)	
備 考		1年 ●印から1科目選択 3年 ●印から1科目選択 1年 「SS理数数学I」 SSH指定校として「理数数学I」(6単位)の代替 2年 「SS理数数学II」 SSH指定校として「理数数学II」(6単位)の代替 3年 「SS理数数学特論」 SSH指定校として「理数数学特論」(7単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数生物」 SSH指定校として「理数生物」(9単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数化学」 SSH指定校として「理数化学」(9単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数物理」 SSH指定校として「理数物理」(9単位)の代替 1年 「STEAMS Time I」 SSH指定校として情報I(2単位)の代替 2年 「STEAMS Time II」 SSH指定校として理数探究(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーションII」を1単位分減単				・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位 ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位	

(令和5年度入学 第2学年) 理数科

さいたま市立大宮北高等学校 全日制の課程
整理番号S49

＝科目選択・コース選択をする際に＝

2025年度第3学年の科目選択・コース選択

普通科3年生では、A1コース（私立文系）、A2コース（国立文系）、Bコース（理系）の3コースに分かれます。また、理数科3年生では、コースはありませんが、選択科目を一つ選ばなくてはなりません。次の各科目の説明をよく読んで、コース・科目選択に間違いがないようにしましょう。

<普通科A1（私立文系）コース>

日本史探究	主に近世から現代までの日本史の展開を、日本のみならず東アジアの視点、さらには世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく考察します。また、後半には一般入試等に備えて問題演習を行います。
世界史探究	主に近世から現代までの世界史を学びます。後半には一般入試等に備えて問題演習を行います。2年生の必修で扱わなかった範囲を学習するので、受験で世界史を必要とする人は必ず選択して下さい。
倫理	時代、地域ごとに過去の優れた思想家の基本的な考え方を学習します。社会全体の解釈や青年期なども学習分野です。幅広く先人の智に触れ、自身の価値観や信条を鍛えてほしいと思います。内容レベルは現在の共通テストを想定しています。
数学探究	数学Ⅰ＋Aを中心に大学入試共通テストや私立文系の数学受験に対応する演習を行います。
演奏研究	音楽・美術・書道選択者をとわず、選ぶことができます。 生活の中にある音楽を再認識し、タブレットを活用して表現してゆきます。
クラフトデザイン	音楽・美術・書道選択者をとわず、選ぶことができます。生活全般にわたり、形や色などを活用し、生活の中で生きるデザインを行います。
実用の書	音楽・美術・書道選択者をとわず、選ぶことができます。実用の書では、日常生活に係わる古くからの日本の習慣（冠婚葬祭を含む）で必要な書式等を学びます。又、表札（10×20）の制作、写経、硬筆を楽しく学びます。
スポーツⅡ	(1) ゴール型球技の理解と実践、(2) ネット型球技の理解と実践、(3) ベースボール型球技の理解と実践 *種目の種類については、人数・男女の割合・施設等を考慮し1学期初めに決定します。
保育基礎	保育の意義や方法、子供の発達や特徴及び子供の福祉と文化などについて理解し、関連する技術を身に付けます。子供の健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ創造的に取り組む態度を養います。進路が福祉・保育の人でなくてもやる気のある人は相談に来てください。実習費2千円を予定しています。

< 普通科 A 2 (国立文系) コース >

日本史探究	主に近世から現代までの日本史の展開を、日本のみならず東アジアの視点、さらには世界史的視野に立ち、幅広い見方で大きく考察します。また、後半には一般入試等に備えて問題演習を行います。
世界史探究	主に近世から現代までの世界史を学びます。後半には一般入試等に備えて問題演習を行います。2年生の必修で扱わなかった範囲を学習するので、受験で世界史を必要とする人は必ず選択して下さい。
政治・経済 + 倫理	政治・経済は、現在の社会を理解し判断するために必要な基本知識を学びます。源流となる思想から現在のトピックまで、可能な範囲で学習します。1年の現代社会で扱うことができなかつた範囲を中心に扱います。現代社会で受験する人も選択して下さい。 倫理は、時代、地域ごとに過去の優れた思想家の基本的な考え方を学習します。社会全体の解釈や青年期なども学習分野です。幅広く先人の智に触れ、自身の価値観や信条を鍛えてほしいと思います。内容レベルは現在の共通テストを想定しています。
地理探究	1 学期には世界の地形・気候および都市と村落を、2 学期には世界各地域の地誌を扱います。その後、共通テストに向けての過去問演習、類題演習を行います。因果関係を重視しながら、ニュースや新聞で見聞きする事柄とも結びつけ、現代社会の知識を土台にして進めていきます。
地学探究	地学基礎の内容で2年生で終わらなかつた範囲の授業を行います。 全範囲終了後、共通テストに向けて問題演習を実施します。
化学探究	「化学基礎」の共通テスト対策演習および考査を行います。「化学基礎」で共通テストを受験する者は必ず受講して下さい。受講者にのみ補習を開講します。

< 普通科 B (理系) コース >

地理探究	1 学期には世界の地形・気候および都市と村落を、2 学期には世界各地域の地誌を扱います。その後、共通テストに向けての過去問演習、類題演習を行います。因果関係を重視しながら、ニュースや新聞で見聞きする事柄とも結びつけ、現代社会の知識を土台にして進めていきます。
公共探究	B コースでは A コースで行う「倫理」「政治・経済」の授業が履修できないので、1 年で履修した「公共」の内容を確認しながら、「倫理」「政治・経済」をダイジェスト版で進めていきます。
物理	2 年生で学習した「物理基礎」に含まれない力学や熱力学、音波・光波、電磁気学さらには原子物理までを学びます。 理工系への進学を考えている人は学習しておく必要があります。
生物	2 年生で学習した「生物基礎」の残っている生態分野と「生物」を合わせて学習します。理系として必要とされる「生物」の知識を学びます。また、大学入試に対応した「生物基礎」「生物」の両方の分野の演習を行います。

< 理数科 >

SS 物理	力学後半 (円運動・単振動・万有引力等)、電磁気学、熱力学、原子物理学を学びます。また、2 学期は大学入試に向けた問題演習を行っていきます。
SS 生物	「生物」の学習していない分野を学びます。また、入試に対応した「生物基礎」「生物」の両方の分野の演習を実施します。

1 国語科

◆ 国語という教科 … 日常の積み重ねを大切に

教科の学習を通して、生涯にわたる社会生活において他者との関わりにおける伝え合う力や、思考力や想像力を身につけられることが最終的な目標となります。そのためにも、多くの作品に触れ、自分なりの意見を持ち、他人の考えからヒントをもらい、さらに考えを深められるように学習していきましょう。

国語の学習は、読解力・表現力だけではなく感性を磨き、思考力を高め、豊かな感受性を育むことにつながります。日頃から、語彙力を豊かにし、いろいろな文章に触れ、人の話に耳を傾け、自らも文章を書き、発言してみることが大切です。

また、そのためにも語彙や文法などの基礎知識が重要となってきます。正しい意味、言葉の使い方方を身につけ、自在に扱えるようになることを目指しましょう。

◆ 2年次の科目

<論理国語>

「論理国語」で扱うのは、主に《論理的な文章》や《実用的な文章》です。1年次で学習した「現代の国語」の延長線上にあります。ただ文章を読んでいくのではなく、話し合いなどの様々な言語活動を通じて、「筆者の表現の工夫をもとに、筆者の主張を捉える力」「自分の考えを深める力」「自分の考えを言語化する力」「他者の意見から多面的に物事を捉えられる力」を身につけていきます。そのためにも、まずは自分の意見をしっかりとつよう、主体的に学習に臨みましょう。また、1年時よりも文章の難易度が上がるので、基礎知識の定着も常に心掛ける必要があります。

また、この科目の中で、《近現代の小説》にも論理的な読み方で触れていきます。他の教科にも影響する、「論理的に考える力」や「実社会に必要な知識」を身につけ、養っていく科目です。

<古典探究>

「古典探究」で扱うのは、《古文》《漢文》の作品です。日本の言語文化に対する理解を深めていく科目です。古文と漢文は教科書が別々に用意されており、1年時以上に幅広く作品に触れていきます。古典作品に対しても「自分がどう感じたのか」を表現することが重要です。そのためには、正確に文章を読み取る力が求められます。それは、多様に使用される語彙や文法を正確に識別することと表裏一体です。つまり、1年時で学んだ古典文法や単語をさらに定着させていくことが重要となります。

◆ 「古典」の学習について

<古文の学習>

日本における、近代よりも前の文学作品を「古文」といいます。ジャンルは詩歌や物語、随想など多岐にわたります。一番の特徴は「言葉の違い」です。現代の言葉遣いからイメージできる単語もあれば、意味の異なる単語もあります。また、文法も現代の日本語とは異なります。作品の世界を味わい、理解を深めていくためにも「単語」と「文法」のマスターがとても重要です。『古文単語 315』や『完全マスター古典文法』を活用し、正しい知識を身につけましょう。

<漢文の学習>

「漢文」は中国における古典作品です。高校の授業で扱う作品は限られていますが、詩歌や物語など様々な作品に触れます。中国の言葉で書かれているので、「句法」や「語彙」など新しく学ばなくてはならないことがたくさんあります。『漢文必携』や『国語便覧』を活用し、古文同様に正しい知識を身につけましょう。

令和5年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
論理国語		2	高等学校 論理国語 [第一学習社]	『新訂総合国語便覧』（第一学習社） 『頻出入試漢字コア2800』（桐原書店） 『読解を深める現代文単語』（桐原書店） 『近現代文学コレクション』（第一学習社）
【到達目標】		①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
【学習上の留意点】		①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	評論（一） ○自他の「間あい」 近代の小説（一） ○山月記		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
6月 ～ 7月	1学期 期末	評論（二） ○「私」中心の日本語 ○日本人の「自然」		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	評論（三） ○手の変幻 ○越境する動物がもたらす贈り物 近代の小説（二） ○こころ		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末	評論（四） ○A I時代の社会と法 評論（五） ○なぜ多様性が必要か ○生体認証技術の発展と未来		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末	評論（六） ○コミュニティ空間としての都市 ○「第二の身体」としてのメディアと技術		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。

令和5年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
古典探究		3	精選 古典探究 (古文編・漢文編) [東京書籍]	『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『四訂版重要古文単語315』(桐原書店) 『改訂三版完全マスター古典文法』(第一学習社) 『漢文必携 五訂版』(桐原書店)
【到達目標】		<p>①生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。</p> <p>②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>		
【学習上の留意点】		<p>①我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解を深め、文章の中で使うことなどを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。</p> <p>②古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などとともに、古典特有の表現などについても理解を深める。</p> <p>③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。</p> <p>④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。</p>		
月	テスト	進度(単元)		チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	古	伊勢物語 「初冠」 枕草子 「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」 敬語(古典文法)	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解 <input type="checkbox"/> 古典文法の理解 <input type="checkbox"/> 敬語の文法的な理解
		漢	小話 「先従隗始」「不死之薬」 「漱石枕流」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
6月 ～ 7月	1学期 期末	古	徒然草 「あだし野の露消ゆる時なく」 方丈記 「安元の大火」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		漢	史記1 「鴻門之会」(前半)	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
9月 ～ 10月	2学期 中間	古	更級日記 「門出」「物語」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		漢	史記1 「鴻門之会」(後半) 「四面楚歌」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
11月 ～ 12月	2学期 期末	古	大和物語 「姨捨」 大鏡 「花山天皇の出家」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		漢	史記1 「項王自刎」 思想1 「性之善也、猶水之就下」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)
1月 ～ 3月	3学期 学年末	古	源氏物語 「光源氏の誕生」「若紫」	<input type="checkbox"/> 歴史的仮名遣いの読み <input type="checkbox"/> 古文単語の理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題) <input type="checkbox"/> 作品・作者理解
		漢	思想2 「無用之用」「大道廢、有仁義」 「小国寡民」「夢為胡蝶」	<input type="checkbox"/> 訓読 <input type="checkbox"/> 書き下し文 <input type="checkbox"/> 句法理解 <input type="checkbox"/> 内容理解(現代語訳・作品の主題)

観点別評価ルーブリック

教科
科目

国語
論理国語

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	小テスト 課題考査 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期考査 行動観察等	該当問題80%以上程度の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力に優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力が標準である。	該当問題40%未満程度の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力に乏しい。
学習主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	考査課題・週末課題 行動観察 小テスト・定期考査等	考査課題・週末課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	考査課題・週末課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	考査課題・週末課題に取り組む姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

国語
古典探究

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	小テスト 課題考査 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期考査 行動観察等	該当問題80%以上程度の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力に優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力が標準である。	該当問題40%未満程度の得点率 Classi Note等による自己の思考や判断についての発表力に乏しい。
学習主体に取組み態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	考査課題・週末課題 行動観察 小テスト・定期考査等	考査課題・週末課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	考査課題・週末課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	考査課題・週末課題に取り組む姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

【地理歴史科】 2年生 歴史総合 科目案内

1、「歴史総合」とは

これまで皆さんは、小学校・中学校の時に「古代から現代にいたる日本の歴史」を学習したと思います。では私たちが2年生で学ぶ「歴史総合」という科目はどんなものなのでしょうか？

ここでは3つの特徴をまとめました。

- ①日本史と世界史を関連づけることで、世界史の中の日本史をとらえようとする科目
- ②古代からの通史ではなく、主に近代・現代を扱う科目
- ③現代に生きる私たちの在り方や直面する課題について考えるという観点から歴史を見ようとする科目

つまり、おもに18世紀以降の日本の歴史を世界の動きと結びつけながら学ぶことで、様々な歴史上の出来事を関連づけ、「現代の問題は“なぜ”生まれたのか」を理解するための科目です。

2、歴史を学ぶにあたって

「歴史」というと、好き・嫌い、得意・不得意が大きく分かれる科目かもしれません。「嫌い」・「不得意」と言う人に理由を聞くと、「覚えられないから」・「暗記が苦手」といった答えが返ってきます。また、「昔のことなんか知ったって何の役にも立たない」と言う人もいます。

さて、そういう人はまず視点を変えてみて下さい。

歴史の学習で本当に大切なのは「覚えること」ではなく「理解すること」です。

例えば高校受験の際に、「1939年に第二次世界大戦開始」「1945年に第二次世界大戦終結」、、、、と、一生懸命覚えた人もいられるでしょう。確かに年号も重要。テストなどではそうした項目も問われるかもしれません。しかし、本当に学ぶべきなのは、

「なぜ1939年に世界大戦が始まることになったのか、それまでにどのような経緯があったのか」

「どのような経過を経て1945年に世界大戦が終わったのか、その結果世界はどう変わったのか」です。

世界で起こる諸現象には、すべて「因果関係（原因と結果）」があり、それによって人間社会は大きく動いています。みなさんに歴史の授業で注目してほしいのは、まさにそうした「因果関係」です。

人類がどのように社会を築き上げてきたのか、何が平和や安定をもたらし、何が悲劇や破滅へと導いたのか、それらを過去の多くの事例から解き明かすことによって、私たちはこれからの社会をどのように築くべきなのか、たくさんの手がかりを得ることができます。

つまり、歴史とは「過去を知ることを通して未来を考える」学問です。

現在の世界情勢を見ても、実に混沌として様々な問題があふれていますが、それらも過去の歴史の中に発端を見出すことができます。逆に、歴史を学ばず過去の失敗を知らないということは、自分の生きている現在がなぜこのような姿なのかを正しく理解できず、あるいは大きな過ちを繰り返す危険を抱えることにもなります。これは、将来どんな分野で活躍する人にとっても重要なことです。歴史の知識は、良き未来の担い手となる皆さんにとって、知恵の一助となるはずです。

3、授業の心構え

①「読む」・「書く」ことを面倒がらない

- ・歴史とはもともと、「過去の資料を読み解く」学問です。「読む」・「書く」は基本中の基本。教科書や資料集によく目を通し、**大切な情報を読み取れる力を身につけましょう。**
- ・また、ノートを取る際にも、板書をただ書き写すだけでは意味がありません。話の内容を集中して聞き取り、重要だと思うことをどんどん自分なりに書き留めましょう。ノートは「写す」ものではなく、自分で「作る」ものという意識が大切です。

②バラバラの「丸暗記」をしない

- ・先述したように**歴史は「因果関係」**です。「人物名」・「国名」・「事件名」などをバラバラに覚えようとするのではなく、意味やつながりをしっかり理解し、ひと続きの物語として**頭の中にストーリーを描ける**ようにして下さい。語句だけの「丸暗記」では、本当の意味での歴史の知識にはなりません。
- ・ただし、習った項目の全てを一度に覚えろというわけではありません。世界史の知識は、積み木のように下から一つ一つ全部積み上げなくても構いません。パズルのように、根気強く一つ一つのピースを隙間に置いていく作業を繰り返していくと、それらがある日ふと繋がって、「**こういうことだったのか!**」と**全体像が見える**ようになることもあります。

③世界のニュースに関心を持つ

- ・例えば、好きな俳優やアーティストがいる人は、その人の過去の経歴や、子ども時代のエピソードなどにも関心があることでしょう。そうした経歴が、現在のその人の生き方や芸風にどう影響を与えたのかを知るの**は、新たな発見であり、興味深いことだからです。**同様に、ニュースをよく見て現在の世界を把握している人は、過去の出来事を学んだときに、「**だからこの地域は今こうなっているのか**」「**だからこの国とこの国はこういう関係になったのか**」と**新たな発見がある**はずです。
- ・歴史を学んで面白いと感じる人の多くは、この「**そうだったのか!**」という「**気づき**」が持てる人です。現在の世界に全く興味関心を持たない人は、過去の話にも面白みを見出すことは難しいでしょう。でもそれはとても勿体ないことです。
- ・世界には、これだけ多様な人々が暮らし、多様な文化があり、多様な価値観があるのですから。

④地図に関心を持つ

- ・言葉だけではなかなか理解しづらい国と国との関係も、**地図を見れば一目瞭然**、ということがよくあります。A国とB国とが友好関係にあるのか敵対関係にあるのか、それはその国の位置、地形、周囲の国々の配置、民族分布、その他様々な地理的要因によって決まることも多いからです。
- ・歴史というと、「時間」の把握に気を取られがちですが、「**空間**」の**把握も大事**。日頃から資料集などを使って地図に親しむ習慣をつけましょう。

令和6年度 年間学習計画表

科目名等	単位数	教科書名	副教材等
歴史総合	3	歴史総合 近代から現代へ [山川出版社]	新詳 歴史総合 [浜島書店]
【到達目標】	① 世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する技能を身に付けるようにする。 ② 多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想し、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。		
【学習上の留意点】	① 基本的な歴史的事象について、その内容を正しく理解できたか。 ② 日々の出来事に関心を持ち、自己の見識をもとに主体的に判断することができたか。 ③ 進路実現のため上級学校へ向かう際の入試や模試への対応力が身についたか。		
月	テスト	進度（単元）教科書目次より	主な学習事項
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界 1 アジア諸地域の繁栄と日本 2 ヨーロッパにおける主権国家体制の形成 第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2 アメリカ独立革命とフランス革命 3 19世紀前半のヨーロッパ 4 19世紀後半のヨーロッパ	<input type="checkbox"/> 西・南アジアのイスラーム帝国 <input type="checkbox"/> 東南アジア <input type="checkbox"/> 明の朝貢体制 <input type="checkbox"/> 幕藩体制 <input type="checkbox"/> 琉球とアイヌ <input type="checkbox"/> 主権国家体制 <input type="checkbox"/> 宗教改革 <input type="checkbox"/> 科学・産業革命 <input type="checkbox"/> 交通・通信手段の革新 <input type="checkbox"/> アメリカ独立革命 <input type="checkbox"/> フランス革命 <input type="checkbox"/> ナポレオン <input type="checkbox"/> ウィーン体制 <input type="checkbox"/> ナショナリズム <input type="checkbox"/> 資本主義 <input type="checkbox"/> 社会主義 <input type="checkbox"/> クリミア戦争 等
6月 ～ 7月	1学期 期末	5 19世紀のアメリカ大陸 6 西アジアの変容とアジアの植民地化 7 中国の開港と日本の開国 第3章 明治維新と日本の立件体制 1 明治維新と諸改革 2 明治初期の対外関係 3 自由民権運動と立件体制 第4章 帝国主義の展開とアジア 1 条約改正と日清戦争 2 日本の産業革命と教育の普及 3 帝国主義と列強の対立 4 世界分割と列強の対立 5 日露戦争とその影響	<input type="checkbox"/> 大西洋移民 <input type="checkbox"/> 南北戦争 <input type="checkbox"/> インド植民地化 <input type="checkbox"/> 東南アジアの植民地化 <input type="checkbox"/> アヘン戦争 <input type="checkbox"/> 太平天国と洋務運動 <input type="checkbox"/> ペリー来航 <input type="checkbox"/> 大政奉還 <input type="checkbox"/> 藩籍奉還 <input type="checkbox"/> 四民平等への諸改革 <input type="checkbox"/> 文明開化 <input type="checkbox"/> 北方開発 <input type="checkbox"/> 自由民権運動 <input type="checkbox"/> 松方デフレ <input type="checkbox"/> 立憲体制 <input type="checkbox"/> 日清戦争 <input type="checkbox"/> 殖産興業 <input type="checkbox"/> 学校教育の進展 <input type="checkbox"/> 第二次産業革命 <input type="checkbox"/> 帝国主義 <input type="checkbox"/> 「世界の一体化」の進展 <input type="checkbox"/> アフリカの植民地化 <input type="checkbox"/> 太平洋諸地域の分割 <input type="checkbox"/> 日露戦争 等
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 国際平和と安全保障 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 大衆消費社会と市民生活の変容 5 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 第6章 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌の発生と各国の対応 2 ファシズムの台頭 3 日本の恐慌と満州事変 4 日中戦争と国内外の動き 5 第二次世界大戦と太平洋戦争	<input type="checkbox"/> 第一次世界大戦 <input type="checkbox"/> 総力戦 <input type="checkbox"/> 二十一カ条の要求 <input type="checkbox"/> ロシア革命 <input type="checkbox"/> ソ連 <input type="checkbox"/> シベリア出兵 <input type="checkbox"/> パリ講和会議 <input type="checkbox"/> 国際連盟の成立 <input type="checkbox"/> ワシントン会議 <input type="checkbox"/> 東アジアの民族運動 <input type="checkbox"/> 国民党と共産党 <input type="checkbox"/> 大衆消費社会の到来 <input type="checkbox"/> 人種差別 <input type="checkbox"/> 大正政変 <input type="checkbox"/> 米騒動 <input type="checkbox"/> 大戦景気 <input type="checkbox"/> 普通選挙運動 <input type="checkbox"/> 労働運動と社会運動 <input type="checkbox"/> 関東大震災 <input type="checkbox"/> 治安維持法 <input type="checkbox"/> 世界恐慌 <input type="checkbox"/> ソ連の社会主義 <input type="checkbox"/> ファシズム 等
11月 ～ 12月	2学期 期末	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革 1 新たな国際秩序と冷戦の始まり 2 アジア諸地域の独立 3 占領下の日本と民主化 4 占領政策の転換と日本の独立 第3部 グローバル化と私たち 第8章 冷戦と世界経済 1 集団防衛体制と核発明 2 米ソ両大国と平和共存 3 西ヨーロッパの経済復興 4 第三世界の連携と試練 5 55年体制の成立 6 日本の高度経済成長 7 核戦争の恐怖から軍縮 8 冷戦構造のゆらぎ 9 世界経済の転換 10 アジア諸地域の経済発展と市場開放	<input type="checkbox"/> 国際連合 <input type="checkbox"/> 冷戦 <input type="checkbox"/> 中華人民共和国の成立 <input type="checkbox"/> 朝鮮戦争 <input type="checkbox"/> イランの民族運動 <input type="checkbox"/> パレスチナ戦争 <input type="checkbox"/> 終戦処理と戦犯裁判 <input type="checkbox"/> 新憲法制定と民主化 <input type="checkbox"/> 中道政権の誕生 <input type="checkbox"/> 日米安保条約の締結 <input type="checkbox"/> 占領期の世相と文化 <input type="checkbox"/> NATO <input type="checkbox"/> OAS <input type="checkbox"/> SEATO <input type="checkbox"/> METO <input type="checkbox"/> 核開発競争 <input type="checkbox"/> 「雪どけ」 フランス第五共和制 <input type="checkbox"/> 第三世界の連携 <input type="checkbox"/> 印パ戦争 <input type="checkbox"/> 中印国境紛争 <input type="checkbox"/> アフリカ諸国の独立 <input type="checkbox"/> 中東戦争 <input type="checkbox"/> キューバ革命 <input type="checkbox"/> 55年体制 <input type="checkbox"/> 自衛隊 <input type="checkbox"/> 日本社会党統一と保守合同 <input type="checkbox"/> 日米安全保障条約の改定 <input type="checkbox"/> 60年安保闘争 <input type="checkbox"/> ベトナム戦争 <input type="checkbox"/> 沖縄返還 <input type="checkbox"/> 高度経済成長 等
1月～ 2月	学年末 考查	第9章 グローバル化する世界 1 冷戦の終結と国際情勢 2 ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3 発展途上国の民主化と独裁政権の動揺 4 地域紛争の激化 5 国際社会のなかの日本 第10章 現代の課題 1 現代世界の諸課題 2 現代日本の諸課題	<input type="checkbox"/> 日本社会党統一 <input type="checkbox"/> 日米安全保障条約の改定 <input type="checkbox"/> 60年安保闘争 <input type="checkbox"/> ベトナム戦争 <input type="checkbox"/> 沖縄返還 <input type="checkbox"/> キューバ危機 <input type="checkbox"/> 核軍縮 <input type="checkbox"/> 「ブラハの春」 <input type="checkbox"/> 公民権運動 <input type="checkbox"/> ドル＝ショック <input type="checkbox"/> 石油危機 <input type="checkbox"/> 開発独裁 <input type="checkbox"/> ASEAN <input type="checkbox"/> NIES <input type="checkbox"/> APEC <input type="checkbox"/> プラザ合意 <input type="checkbox"/> バブル経済 <input type="checkbox"/> イラン＝イスラーム改革 <input type="checkbox"/> 湾岸戦争 <input type="checkbox"/> ソ連崩壊 等

※自己チェック項目は学習内容のすべてではない。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

地理歴史
歴史総合

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
主体的に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

3 数学科

はじめに 数学を学ぶ意義・姿勢

数学は好き嫌いが激しく分かれる教科です。皆さんの中にも数学なんて大嫌いという人もいれば、数学が一番楽しいという人もいるでしょう。高校では好きでも嫌いでも数学を学ばなくてはなりません。もちろん、やらなくては卒業できないからです。かといって、卒業するためだけに数学を勉強するのは悲しいものがあります。目的意識と志をもって学習するために、数学を学ぶ意義・意味を考えましょう。

まず挙げられるのが「数学で学んだ内容（数学的知識）が社会に出て（そのまま）役に立つ」ということです。理系の人で将来開発や研究に携わる人は言わずもがなでしょうが、文系の人でも経済学や商学等では様々な計算を行いますし、確率や統計を用いる場面はあります。

次に挙げられるのが「数学の学習で身に着けた能力が社会に出て活かせる」ということでしょう。数学の学習で身に着けられる最大の能力が「**課題解決能力**」です。決して「計算力」や「ひらめき」ではありません。目の前にある課題に対して「課題を分析し、解決への道筋を探し、解決のためのアイデアを見つけ、それを実際に実行・表現する」ことが出来るようになることが、課題解決能力をつけるということです。

皆さんには前者の「数学的知識」はもちろん、後者の「課題解決能力」を身に着けることを大宮北高校で数学を学ぶ意義・意味だと考えてほしいです。

さて、そのために大事なことは何でしょう。最も大切なことは**能動的に学ぶ姿勢**です。池の鯉のように口をパクパクさせてエサ（知識）を放り込んでもらえるのを待っているような学び方はしないでください。**肉食動物のように自ら獲物（知識）を求めて狩りをするような学習姿勢**を持ってほしいと思います。そのためのポイントとなる以下の点を順次説明しましょう。

- (1) 予習 (2) 授業 (3) 復習 (4) 小テスト・定期考査 (5) ノート

(1) 予習について

数学が得意になる秘訣は予習することです。予習をしないで授業に臨むのは新鮮であるかもしれませんが危険です。

「予習してもわからないのですが…」

わからなくていいのです。予習して教科書が理解できるなら、それはすごい能力です。わからないところを見つけることが大切。授業ではどうやって説明するのかなという楽しみがあります。

「予習の仕方がわからないのですが…」

その時間にやりそうなところを解くだけでいいのです。わからないときはその近辺の例題や説明を参考にして考えるのです。それでもわからないときはマークしておいて次に進んでいいのです。

「予習する意義があるのですか？」

まず最も大切なこととして、**人に教わったことは忘れます。自ら理解したものは体と頭に身に着きます。**自分で理解できればそれがベストなのです。

さらに、**課題解決能力のなかでも最も重要なのは「初めて直面した問題に対応する能力」**です。予習を通して、初めて見た内容を自力で読み理解する…ということを日々続けることが、この能力の育成に大切です。近未来的にいえば、見たことのない入試問題に対応する力がつきます。将来のことを考えれば、研究者や開発者に問われるのは、誰も成し遂げたことのないこと、誰も創ったことのないものを発想・創造する力です。毎日の少しずつの予習が君たちをどれだけ成長させるか考えてください。

(2) 授業について

1. 先生の説明は注意深く聞き、疑問点は必ず質問をする。

「質問なんかしたら自分が分かっていないことが周りにばれちゃうんじゃないか・・・？」

大丈夫です。自分が分かってなければクラスの半分以上は分かっていません。先生の説明は完璧ではありません。あなたが聞きたい質問の答えはみんなが聞きたいことです。遠慮せずに質問してください。生徒の質問が多いのはいい授業の証拠です。

2. 先生の説明の要点は必ずメモをとる。

板書以外の説明もしっかり注意してノートに取るように心掛けましょう。問題を解く着眼点や発想などは、板書の中でなく、説明の中にあるかもしれません。

3. 問題は必ず自分で解く。

授業中に解く問題は、その授業が理解できたかどうかを試すチャンスです。数学では「理解する」だけでなく「解ける」「表現できる」ことが大事です。理解したことを使って問題を解き、答案として表現できるか確認しましょう。

4. 基本の解き方をマスターし、様々な解き方を探求する。

解いた問題の答え合わせをして、基本的な解き方を押さえましょう。さらに、別の解法がないか考えることが大切です。教科書に載っている解法がすべてではありません。一つのやり方で満足するのではなく、別の解法を考える習慣をつけることで、問題解決能力は何倍にもなります。

(3) 復習について

中学校では、授業時間中さえしっかり集中していれば、授業についていくのにそれほど苦労しなかったかもしれません。しかし、覚えるべきことの質や量がレベルアップした高校の学習内容を完璧に理解するためには、授業だけでは不十分です。その日の授業内容を理解できたかしっかり確認しておきましょう。また高校の授業の進むスピードは、中学校とは段違いです。そのため、ほんの少しの「わからないこと」が、あっと言う間に手のつけようがないほど溜まってしまいます。疑問点は早めに解決しておきましょう。

1. 宿題は必ず自分の力で取り組む。

2. 授業で扱わなかった問題にも挑戦する。問題集は考査前だけでなく普段から取り組んでおく。

3. 解けない問題にも教科書・授業ノート・参考書で調べ、粘り強く取り組む。

4. それでもわからないときは、周りの友達に聞いてみよう。友達に聞くことで、質問した人も質問された人も理解が深まります。

5. どうしてもわからないときは、どこが、何がわからないのかを明らかにして、先生に質問しましょう。

(4) 小テスト・定期考査

- 大宮北高校では、教科書のまとまった単元、章が終わるときに確認のテストを行います。その単元、章の基本事項、標準的な問題が出題されるテストです。点数を気にするのではなく、自分の理解度を確認し、十分に理解している項目はさらに発展的な内容に、理解が不十分な項目は後回しにせず即座に基本から取り組みましょう。
- 高校の定期考査は教科・科目数も多く、とても一夜漬けでは通用しません。数学も含め、どの教科も継続した日々の学習、家庭での予習、復習が欠かせません。定期考査前には、基本的には授業の理解を中心にして、教科書とノート、問題集を使って徹底復習しましょう。

高校で初めての定期考査は、何をすればいいのかわからない人も多いでしょう。
数学の小テスト・定期考査の出題内容は、簡単に言うと次のようになります。

- 教科書の練習，チャートの基本例題コンパス1・2にあるような「基本問題」
- 教科書の応用例題や章末問題A，チャートの基本例題コンパス3にあるような「標準問題」
- 教科書の章末問題B，チャートの重要例題コンパス4・EXERCISESにあるような「応用問題」

基本的にはこれらを、教科書と授業ノート、参考書を利用して、最初からもう一度自分の力で解くことが最低限必要になります。

解き方を暗記したり、模範解答を綺麗にノートに写したりして勉強した気になって終わるのではなく、**とにかく「考える」「答案を完成させる」ことが大切**です。代表的・典型的な例題は、解法パターンの習得が必要ですが、それでもすぐに模範解答をみるのではなく、時には時間をかけて考え、悩むことが必要です。**自分で考えてこそ**、模範解答を見たとき、納得し・解法に感心し、あるいは気づかなかったポイントが強く印象づけられるというものです。

実際に手を動かし・考え、その後で解法を確認する。学問に王道なし。千里の道も一歩から。継続は力なり。地道な努力を継続することこそが次の勝利へとつながるのです。

<事前対策のチェック&アドバイス>

2週間前Check <計画を立て、範囲内のポイントを徹底理解！>

- **テスト範囲を確認して、計画を立てる。**

試験範囲をもれなく対策するためには、計画的に勉強することが何よりも大切です。

- **知識にもれがないよう教科書・授業ノートを見直す。**

押さえるべきポイントや知識はすべて頭に入れましょう。

- **定理・公式の使い方をチェックする。**

定理・公式はただ覚えるだけでは点が取れません。理解し、基本問題を解いて使い方を確認しておきましょう。

1週間前Check <問題を解ける状態にしておこう！>

- **教科書，問題集の問題を解く。**

知識は、実際に問題が解けてはじめてテストで通用します。問題演習には徹底的に取り組みましょう。

- **課題プリントも確認し，問題を解いておく。**

- **以前，間違えたことのある問題は必ず解き直す。**

高校の定期テストでは問題を解く過程も採点の対象となるので、解法までしっかり確認しておきましょう。

- **教科書の章末問題，問題集の応用問題にも取り組む。**

前日Check <直前は最終チェック！>

- **解き方に不安のある問題はないか，再チェックする。**

- **定理・公式などをもう一度確かめておく。**

(5) ノートについて

少なくとも「予習・授業ノート」「問題演習ノート」「誤答訂正ノート」の3冊のノートを用意して下さい。

「予習・授業ノート」：日々の予習や授業で使います。

- ・予習の段階では、新しい言葉(定義)の確認、例題などを自力で取り組み、不明な点を明らかにしておきます。
- ・授業では、
 - ①章やタイトルを記入し、復習の時に見やすいノートを心がける。
 - ②式変形などは途中式を省略せず、後で見直したときに分かるようにしておく。
 - ③口頭での説明も含め、大切なポイントは、枠で囲んだり蛍光ペンで色づけしたり目立つようにする。
 - ④図やグラフは、大きめに丁寧に描く。問題で問われている状況がイメージしやすくなります。

「問題演習ノート」：チャートの問題等を解きます。

- ・例として、㉔：自力で解けた、㉕：ヒントを見て解けた、㉖：解答を見て理解した、㉗：解答を見ても不明 などのチェックをつけ、㉕～㉗は必ず解き直す。試験までに3回は繰り返すとよい。
- ・夏休みなどの演習課題を解く。

「誤答訂正ノート」：小テストや定期考査、課題テスト、実力テストの復習に用います。

- ・テストが終わって安心してはいけません。テスト勉強は、実は答案用紙が返却された後こそが本番と言ってもいいくらいなのです。その範囲内の最重要事項ばかりを凝縮して作られるのが試験問題です。

間違えた問題、減点された問題を徹底的に解き直すことは学力を向上させるために極めて効果的です。

このことは、これから取り組むすべての試験で一番大切なことです。

- ①問題用紙、解答用紙を貼る。
- ②間違ったり、減点されたりした問題は、模範解答を参考に**解き直し**、解答の流れを整理する。
- ③誤答の原因や、**解法のポイント**をわかりやすくまとめる。
- ④**類題**を、問題集や教科書から探し解いてみる。
- ⑤最後に、テストの結果や普段の学習の仕方について**反省点や改善点**などをまとめる。

- ・自分がどこでつまづいたのか、どうして間違えたのかが一目でわかり、復習するのにとても便利です。このノートは後で何度も見返しましょう。返却された答案用紙は、これから成績アップするために何をすればいいのかを教えてくれる道しるべであり、向上への宝の山です！

(6) 最後に

<数学の2つの勉強法>

数学は積み上げていく学問なのでコツコツやっていくのが普通でしょう。定期テストくらいはこれで対応できます。しかし、理系の入試、さらに理工系で数学を応用する場合、これでは不十分です。必要なのは2つ、

「熱中する時間」「コツコツと学ぶ時間」

何か面白いことがあったらそれに熱中して考えてみましょう。その分野が得意になるはずですが、苦手な分野があったら8時間そこだけをやってみましょう。何かが見えてきます。中学の教科書を丸一日かけて見直すのもいいかもしれません。**コツコツ、時に熱中!**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数学Ⅱ、数学B		6	数学Ⅱ、数学B、数学C [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」 問題集「基本と演習テーマ」
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅱ」第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理	<input type="checkbox"/> 三角関数のグラフ <input type="checkbox"/> 三角関数の性質 <input type="checkbox"/> 三角関数の応用 <input type="checkbox"/> 加法定理 <input type="checkbox"/> 加法定理の応用	
		「数学Ⅱ」第5章 指数・対数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	<input type="checkbox"/> 指数の拡張 <input type="checkbox"/> 指数関数 <input type="checkbox"/> 対数とその性質 <input type="checkbox"/> 対数関数 <input type="checkbox"/> 常用対数	
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学B」第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 数列と一般項 <input type="checkbox"/> 等差数列とその和 <input type="checkbox"/> 等比数列とその和 <input type="checkbox"/> 和の記号 Σ <input type="checkbox"/> 階差数列 <input type="checkbox"/> いろいろな数列の和 <input type="checkbox"/> 漸化式 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法	
		「数学Ⅱ」第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化	<input type="checkbox"/> 微分係数 <input type="checkbox"/> 導関数とその計算 <input type="checkbox"/> 接線の方程式 <input type="checkbox"/> 関数の増減と極大・極小 <input type="checkbox"/> 関数の増減・グラフの応用	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第3節 積分法	<input type="checkbox"/> 不定積分 <input type="checkbox"/> 定積分 <input type="checkbox"/> 定積分と面積	
		「数学B」第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	<input type="checkbox"/> 確率変数と確率分布 <input type="checkbox"/> 確率変数の期待値と分散 <input type="checkbox"/> 確率変数の和と積 <input type="checkbox"/> 二項分布 <input type="checkbox"/> 正規分布 <input type="checkbox"/> 母集団の推測 <input type="checkbox"/> 標本平均の分布 <input type="checkbox"/> 推定 <input type="checkbox"/> 仮説検定	
11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学C」第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	<input type="checkbox"/> ベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの演算 <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積 <input type="checkbox"/> 位置ベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用 <input type="checkbox"/> 図形のベクトルによる表示	
		「数学C」第2章 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> 空間の点 <input type="checkbox"/> 空間のベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積 <input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用 <input type="checkbox"/> 座標空間における図形	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学C」第3章 複素数平面	<input type="checkbox"/> 複素数平面 <input type="checkbox"/> 複素数の極形式 <input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理 <input type="checkbox"/> 複素数と図形	
		「数学C」第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	<input type="checkbox"/> 放物線 <input type="checkbox"/> 楕円 <input type="checkbox"/> 双曲線 <input type="checkbox"/> 2次曲線の平行移動 <input type="checkbox"/> 2次曲線と直線 <input type="checkbox"/> 2次曲線の性質 <input type="checkbox"/> 曲線の媒介変数表示 <input type="checkbox"/> 極座標と極方程式	

※ 課題テスト(4月・9月・1月)：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト(7月・11月・1月)：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

※ 小テスト：単元ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する場合がある。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
理数数学Ⅱ		6	数学Ⅱ、数学B、数学C、数学Ⅲ [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」 問題集「4プロセス」
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅱ」第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	<input type="checkbox"/> 指数の拡張 <input type="checkbox"/> 指数関数 <input type="checkbox"/> 対数とその性質 <input type="checkbox"/> 対数関数 <input type="checkbox"/> 常用対数	
		「数学B」第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	<input type="checkbox"/> 数列と一般項 <input type="checkbox"/> 等差数列とその和 <input type="checkbox"/> 等比数列とその和 <input type="checkbox"/> 和の記号 Σ <input type="checkbox"/> 階差数列 <input type="checkbox"/> いろいろな数列の和 <input type="checkbox"/> 漸化式 <input type="checkbox"/> 数学的帰納法	
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学Ⅱ」第6章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法	<input type="checkbox"/> 微分係数 <input type="checkbox"/> 導関数とその計算 <input type="checkbox"/> 接線の方程式 <input type="checkbox"/> 関数の増減と極大・極小 <input type="checkbox"/> 関数の増減・グラフの応用 <input type="checkbox"/> 不定積分 <input type="checkbox"/> 定積分 <input type="checkbox"/> 定積分と面積	
		「数学B」第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測	<input type="checkbox"/> 確率変数と確率分布 <input type="checkbox"/> 確率変数の期待値と分散 <input type="checkbox"/> 確率変数の和と積 <input type="checkbox"/> 二項分布 <input type="checkbox"/> 正規分布 <input type="checkbox"/> 母集団の推測 <input type="checkbox"/> 標本平均の分布 <input type="checkbox"/> 推定 <input type="checkbox"/> 仮説検定	
9月 ～ 10月	2学期 中間	「数学C」第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形	<input type="checkbox"/> ベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの演算 <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積 <input type="checkbox"/> 位置ベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用 <input type="checkbox"/> 図形のベクトルによる表示	
11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学C」第2章 空間のベクトル	<input type="checkbox"/> 空間の点 <input type="checkbox"/> 空間のベクトル <input type="checkbox"/> ベクトルの成分 <input type="checkbox"/> ベクトルの内積 <input type="checkbox"/> ベクトルの図形への応用 <input type="checkbox"/> 座標空間における図形	
		「数学C」第3章 複素数平面	<input type="checkbox"/> 複素数平面 <input type="checkbox"/> 複素数の極形式 <input type="checkbox"/> ド・モアブルの定理 <input type="checkbox"/> 複素数と図形	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学C」第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	<input type="checkbox"/> 放物線 <input type="checkbox"/> 楕円 <input type="checkbox"/> 双曲線 <input type="checkbox"/> 2次曲線の平行移動 <input type="checkbox"/> 2次曲線と直線 <input type="checkbox"/> 2次曲線の性質 <input type="checkbox"/> 曲線の媒介変数表示 <input type="checkbox"/> 極座標と極方程式	
		「数学Ⅲ」第1章 関数	<input type="checkbox"/> 分数関数 <input type="checkbox"/> 無理関数 <input type="checkbox"/> 逆関数と合成関数	
		「数学Ⅲ」第2章 極限 第1節 数列の極限	<input type="checkbox"/> 数列の極限 <input type="checkbox"/> 無限等比数列 <input type="checkbox"/> 無限級数	

※ 課題テスト（4月・9月・1月）：長期休業中に与えられた課題をもとに出題する。

※ 実力テスト（7月・11月・1月）：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

※ 小テスト：各章ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

数学
数学Ⅱ

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 三角関数，指数対数，微分積分についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	標準テスト 課題考査 定期考査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	三角関数，指数対数，微分積分において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	標準テスト 課題考査 定期考査 等	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が優れている。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が標準である。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が乏しい。</p>
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，自分の得意・不得意な分野を把握し，修練・改善したりしようとしている。 	提出物 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で，自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で，自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で，自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

数学
数学B

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数列、統計についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	標準テスト 課題考査 定期考査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	数列・統計において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	標準テスト 課題考査 定期考査 等	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が優れている。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が標準である。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が乏しい。</p>
主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、自分の得意・不得意な分野を把握し、修練・改善したりしようとしている。 	提出物 定期テスト 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

令和6年度 普通科2年生 物理基礎(サイエンス生物選択者)

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
物理基礎		2	高等学校 物理基礎 (啓林館)	新課程版 セミナー物理基礎2024 (第一学習社)
【到達目標】		① 身近な物理現象と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ② 科学的に探究する力を育み、物理学と日常生活や社会との関わりを考えることができるようになる。		
【学習の仕方】		① 教科書の「文章」だけではなく、「イラスト」や「グラフ」、「公式」の意味を考えながら、予習・復習しましょう。 ② 積極的に問題演習をしましょう。		
【学習上の留意点】		① 問題を解くことができ、初めて内容を理解したことになります。問題が解けないうちはとても辛いと思いますが、できるまで何度も繰り返して乗り越えましょう。 ② 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまいます。わからないことは後回しにせず、早めに理解しましょう。 ③ 理科は“現実(リアル)”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。		
月	テスト	進度(単元)		
4月 ~ 5月	1学期 中間	【第1部】 物体の運動と エネルギー	【第1章】物体の運動 ① 速度 ② 加速度 ③ 落体の運動	
6月 ~ 7月	1学期 期末		【第2章】力と運動 ① 力 ② 運動の法則 ③ 様々な力と運動	
9月 ~ 10月	2学期 中間		【第3章】仕事とエネルギー ① 仕事 ② 運動エネルギー ③ 位置エネルギー ④ 力学的エネルギー	
		【第2部】 熱	【第1章】熱とエネルギー ① 熱と温度 ② 熱量 ③ 熱の利用	
11月 ~ 12月	2学期 期末	【第3部】 波	【第1章】波の性質 ① 波の伝わり方 ② 波の性質	【第2章】音 ① 音波の性質 ② 音源の振動
1月 ~ 3月	3学期 学年末	【第4部】 電気と磁気	【第1章】静電気と電流 ① 静電気 ② 電流	【第2章】交流と電磁波 ① 電磁誘導と発電機 ② 交流と電磁波
		【第5部】 物理と 私たちの生活	【第1章】エネルギーとその利用 ① 様々なエネルギーとその利用	【第2章】物理学が拓く世界

令和6年度 普通科2年生 物理基礎(サイエンス物理選択者)

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
物理基礎 サイエンス物理		計4 (2+2)	高等学校 物理基礎 (啓林館) 高等学校 物理 (啓林館)	新課程版 セミナー物理基礎+物理2024 (第一学習社)
【到達目標】		① 基本的な概念や原理、法則を理解し、物理学的に探求する能力と態度を身につける。 ② 物理的な事象の観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高める。		
【学習の仕方】		① 教科書の「文章」だけではなく、「イラスト」や「グラフ」、「公式」の意味を考えながら、予習・復習しましょう。 ② 積極的に問題演習をしましょう。		
【学習上の留意点】		① 公式を暗記しただけでは、物理は習得できません。公式の意味を考え、物理量どうしの関係を常に考えることが大切になります。教科書をしっかり読みこむことも必要です。 ② 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまう。わからないことは後回しにせず、早めに理解しましょう。 ③ 理科は“現実(リアル)”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。		
月	テスト	進度 (単元)		
4月 ～ 5月	1学期 中間	運動の表し方 落体の運動 平面の運動	物理基礎 【第1章】物体の運動 ① 速度 ② 加速度 ③ 落体の運動	物理 【第1章】物体の運動 ① 平面内の運動 ② 落体の運動
6月 ～ 7月	1学期 期末	力のつり合い 運動の法則 剛体にはたらく力のつりあい	【第2章】力と運動 ① 力 ② 運動の法則 ③ 様々な力と運動	【第2章】剛体のつり合い ① 剛体のつり合い
9月 ～ 10月	2学期 中間	仕事と力学的エネルギー	【第3章】仕事とエネルギー ① 仕事 ② 運動エネルギー ③ 位置エネルギー ④ 力学的エネルギー	
		熱とエネルギー	【第1章】熱とエネルギー ① 熱と温度 ② 熱量 ③ 熱の利用	
11月 ～ 12月	2学期 期末	波の性質 音の伝わり方と発音体の振動	【第1章】波の性質 ① 波の伝わり方 ② 波の性質 【第2章】音 ① 音波の性質 ② 音源の振動	【第1章】波の性質 ① 正弦波の表し方 ② 波の伝わり方 【第2章】音 ① 音の性質
1月 ～ 3月	3学期 学年末	ドップラー効果 光の性質とレンズ 光の干渉と回折		②ドップラー効果 【第3章】光 光の性質 レンズと球面鏡 光の回折と干渉

令和6年度 普通科2年生 地学基礎

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
地学基礎		2	高等学校 地学基礎 (第一学習社)	セミナー 地学基礎 (第一学習社)
【到達目標】		① 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ② 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ③ 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
【学習の仕方】		① 教科書の「文章」だけではなく、「イラスト」や「グラフ」の意味を考えながら、予習・復習をしましょう。 ② 関連する用語はまとめて覚えましょう。		
【学習上の留意点】		① 問題を通して、覚えるべき用語を把握しましょう。 ② 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまいます。わからないことは後回しにせずに、早めに理解しましょう。 ③ 理科は“現実(リアル)”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。		
月	テスト	進度(単元)		
4月 ～ 5月	1学期 中間	【第1章】 地球のすがた	【第1節】地球の概観 【第2節】プレートの運動	
6月 ～ 7月	1学期 期末	【第2章】 地球の活動	【第1節】地震 【第2節】火山活動	
9月 ～ 10月	2学期 中間	【第5章】 生物の変遷と 地球環境	【第1節】地層と化石 【第2節】地球と生物の変遷	
11月 ～ 12月	2学期 期末	【第3章】 大気と海洋	【第1節】地球のエネルギー収支 【第2節】大気と海水の運動	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	【第4章】 宇宙と地球	【第1節】宇宙と太陽の誕生 【第2節】太陽系と地球の誕生	
		【第6章】 地球の環境	【第1節】地球の環境 【第2節】日本の自然環境	

サイエンス化学

授業の取り組み方

- 授業のたび、副教材の「セミナー」で問題演習を行い、学習内容の理解度を確認しましょう。不明なところがあったら、なるべく早く克服しましょう。化学の授業は既習内容を用いて次の内容を学習することがほとんどなので、不明なところを放置していると、連続的に分からなくなってしまいます。
- 「セミナー」は標準演習が多く、普段の学習や定期考査対策の学習に向いています。授業では指定した副教材を使いますが、それとは別の自身の学習スタイルに合った参考書・問題集を用意しておきましょう。
- タブレットを有効に活用しましょう。「スタディサプリ」は普段の予習・復習にうってつけですし、気になる実験があれば「You Tube」で実際の様子を確認することもできます。

令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
サイエンス化学		2	化学基礎（数研出版） 化学（数研出版）	2023 セミナー 化学基礎＋化学（第一学習社）
月	テスト	進度（単元）		
4月 ～ 5月	1学期 中間	第2編 物質の変化		
		第2章 電池と電気分解		
		1. 電池	2. 電気分解	
		第1編 物質の状態		
第1章 粒子の結合と結晶				
1. 原子とイオン		5. 共有結合結晶		
2. イオン結合とイオン結晶		6. 金属結合と金属結晶		
3. 分子と共有結合		7. 非晶質		
4. 分子間にはたらく力				
6月 ～ 7月	1学期 期末	第1編 物質の状態		
		第2章 物質の状態変化		
		1. 粒子の熱運動		3. 気液平衡と蒸気圧
		2. 三態の変化とエネルギー		
第3章 気体				
1. 気体の体積		3. 混合気体の圧力		
2. 気体の状態方程式		4. 実在気体		
9月 ～ 10月	2学期 中間	第1編 物質の状態		
		第4章 溶液		
		1. 溶解とそのしくみ		3. 希薄溶液の性質
		2. 溶解度		4. コロイド溶液
第2編 物質の変化				
第1章 化学反応とエネルギー				
1. 化学反応と熱		2. 化学反応と光		
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2編 物質の変化		
		第3章 化学反応の速さとしくみ		
		1. 化学反応の速さ		3. 電解質水溶液の化学平衡
		2. 反応条件と反応速度		
第4章 化学平衡				
1. 可逆反応と化学平衡		3. 電解質水溶液の化学平衡		
2. 平衡状態の変化				
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3編 無機化学		
		第1章 非金属元素		
		1. 元素の分類と周期表		5. 酸素・硫黄
		2. 水素		6. 窒素・リン
		3. 貴ガス元素		7. 炭素・ケイ素
4. ハロゲン元素				

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
サイエンス生物		2	生物基礎 生物 数研出版	リードα生物基礎, リードα生物 数研出版
【到達目標】		① 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ② データの読み方を身につける。 ③ 共通テストおよび、個別試験に対応できる学力を養う。		
【学習上の留意点】		① 定期考査は、共通テスト、個別試験に準ずるレベルとなる。 ② サイエンスA地学基礎選択者は、2学期以降は生物基礎の復習及び演習となる。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	〈生物基礎〉第4章 植生と遷移 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全 〈生物〉第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞		<input type="checkbox"/> 生態系の成り立ち <input type="checkbox"/> 生態系と種多様性 <input type="checkbox"/> 生物どうしのつながり <input type="checkbox"/> 生態系のバランス <input type="checkbox"/> 人間の生活と生態系 <input type="checkbox"/> 生態系の保全 <input type="checkbox"/> 細胞を構成する物質 <input type="checkbox"/> 原核細胞と真核細胞の構造 <input type="checkbox"/> 真核細胞の構造と機能 <input type="checkbox"/> 生体膜の構造
6月 ～ 7月	1学期 期末	〈生物〉第2章 細胞と分子 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわる タンパク質 〈生物〉第1章 生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化		<input type="checkbox"/> タンパク質とは <input type="checkbox"/> タンパク質の構造 <input type="checkbox"/> 酵素の基本的なはたらき <input type="checkbox"/> 酵素反応の調節 <input type="checkbox"/> 酵素のはたらきと反応条件 <input type="checkbox"/> 膜輸送にかかわるタンパク質 <input type="checkbox"/> 遺伝子と形質 <input type="checkbox"/> ゲノムの多様性 <input type="checkbox"/> 減数分裂と受精 <input type="checkbox"/> 染色体と遺伝子 <input type="checkbox"/> 遺伝子の組み合わせの変化
9月 ～ 10月	2学期 中間	〈生物〉第1章 生物の進化 第4節 進化のしくみ 〈生物〉第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵		<input type="checkbox"/> 進化と突然変異 <input type="checkbox"/> 集団としての進化 <input type="checkbox"/> 実際の生物集団と進化 <input type="checkbox"/> 種分化 <input type="checkbox"/> 生物とエネルギー <input type="checkbox"/> 生体内の化学反応 <input type="checkbox"/> 呼吸とは <input type="checkbox"/> 呼吸の過程 <input type="checkbox"/> 発酵
11月 ～ 12月	2学期 期末	〈生物〉第3章 代謝 第3節 光合成 〈生物〉第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化		<input type="checkbox"/> 光合成とは <input type="checkbox"/> 光合成のしくみ <input type="checkbox"/> 細菌の光合成 <input type="checkbox"/> 生物の多様性と共通性 <input type="checkbox"/> 原始地球と有機物 <input type="checkbox"/> 有機物から生物へ <input type="checkbox"/> 生物の出現とその発展 <input type="checkbox"/> 真核生物の出現と進化 <input type="checkbox"/> 生物の分類 <input type="checkbox"/> 生物の系統と系統樹 <input type="checkbox"/> 人類の祖先 <input type="checkbox"/> 人類の進化
1月 ～ 3月	3学期 学年末	〈生物〉第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現		<input type="checkbox"/> DNAの構造 <input type="checkbox"/> DNAの複製 <input type="checkbox"/> 遺伝情報とその発現 <input type="checkbox"/> 転写とスプライシング <input type="checkbox"/> 翻訳 <input type="checkbox"/> 真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違い

※ 課題テスト：なし
 ※ 実力テスト：なし

サイエンス生物（2年）

（1） 予習について

予習は基本的に必要ありません。しかし、授業を聞いても理解しにくいことが多い場合は、予習をした方が良いでしょう。

（2） 授業について

- ・サイエンス A について化学を選択した場合、生物の教科書の 第 4 章 第 2 節まで進みます。第 3 節以降は 3 年生で学びます。（生物選択者のみ）
- ・サイエンス A について地学基礎を選択した場合、生物の教科書の第 2 章のみ扱います。2 学期以降は、生物基礎の復習と演習を行います。
- ・分からない箇所があったら積極的に質問をして下さい。
- ・授業の中で実験を行う際には、実験の方法・内容を理解した上で取り組んで下さい。

（3） 考査およびその学習方法について

授業で習ったことの確認として問題集を解きましょう。2 回目からはできなかつた問題のみを解いていきましょう。分からない問題は、まず解説を読んで、それでも分からなければ、質問に来て下さい。

生物は用語が多く、暗記が重要に思われる傾向にありますが、用語だけを必死に暗記してもなかなかできるようにはなりません。用語や教科書の模式図、イラスト等を見たときにそれらについてどれだけ周辺の知識も含めて思い出して話せるかが重要になります。用語集などを使用する場合は、単語の意味などを隠して、用語の意味や周辺知識を思い出そうに行う勉強をお奨めします。

SS 理数化学

授業の取り組み方

- 授業のたび、副教材の「セミナー」で問題演習を行い、学習内容の理解度を確認しましょう。不明なところがあったら、なるべく早く克服しましょう。化学の授業は既習内容を用いて次の内容を学習することがほとんどなので、不明なところを放置していると、連続的に分からなくなってしまいます。
- 「セミナー」は標準演習が多く、普段の学習や定期考査対策の学習に向いています。授業では指定した副教材を使いますが、それとは別の自身の学習スタイルに合った参考書・問題集を用意しておきましょう。
- タブレットを有効に活用しましょう。「スタディサプリ」は普段の予習・復習にうってつけですし、気になる実験があれば「You Tube」で実際の様子を確認することもできます。

令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS理数化学		3	化学基礎 (数研出版) 化学 (数研出版)	2023 セミナー 化学基礎+化学 (第一学習社) フォトサイエンス化学図録 (数研出版)
月	テスト	進度 (単元)		
4月 ～ 5月	1学期 中間	第2編 物質の変化		
		第2章 電池と電気分解 1. 電池	2. 電気分解	
		第1編 物質の状態		
		第1章 粒子の結合と結晶 1. 原子とイオン 2. イオン結合とイオン結晶 3. 分子と共有結合 4. 分子間にはたらく力	5. 共有結合結晶 6. 金属結合と金属結晶 7. 非晶質	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第1編 物質の状態		
		第2章 物質の状態変化 1. 粒子の熱運動 2. 三態の変化とエネルギー	3. 気液平衡と蒸気圧	
		第3章 気体 1. 気体の体積 2. 気体の状態方程式	3. 混合気体の圧力 4. 実在気体	
		第4章 溶液 1. 溶解とそのしくみ 2. 溶解度	3. 希薄溶液の性質 4. コロイド溶液	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2編 物質の変化		
		第1章 化学反応とエネルギー 1. 化学反応と熱	2. 化学反応と光	
		第3章 化学反応の速さとしくみ 1. 化学反応の速さ 2. 反応条件と反応速度	3. 化学反応のしくみ	
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2編 物質の変化		
		第4章 化学平衡 1. 可逆反応と化学平衡 2. 平衡状態の変化	3. 電解質水溶液の化学平衡	
		第3編 無機化学		
		第1章 非金属元素 1. 元素の分類と周期表 2. 水素 3. 貴ガス元素 4. ハロゲン元素	5. 酸素・硫黄 6. 窒素・リン 7. 炭素・ケイ素	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3編 無機化学		
		第2章 金属元素 (I) —典型元素— 1. アルカリ金属元素 2. 2族元素	3. アルミニウム・亜鉛 4. スズ・鉛	
		第3章 金属元素 (II) —遷移元素— 1. 遷移金属の特徴 2. 鉄 3. 銅	4. 銀 5. 金・クロム・マンガン 6. 金属イオンの分離・確認	

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS生物		2	生物基礎 生物 数研出版	リードα生物基礎+生物 数研出版
【到達目標】		① 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ② データの読み方を身につける。 ③ 共通テストおよび、個別試験に対応できる学力を養う。		
【学習上の留意点】		① 生物基礎と生物の重複分野は、両方の内容を学習する。 ② 定期考査は、共通テスト、個別試験に準ずるレベルとなる。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	〈生物基礎〉第3章 ヒトの体内環境の維持 第3節 免疫のはたらき 〈生物基礎〉第4章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 第2節 植生の分布とバイオーム 第3節 生態系と生物の多様性 第4節 生態系のバランスと保全		<input type="checkbox"/> 免疫と病気 <input type="checkbox"/> 植生 <input type="checkbox"/> 植生の遷移 <input type="checkbox"/> バイオームの成立 <input type="checkbox"/> 世界のバイオーム <input type="checkbox"/> 日本のバイオーム <input type="checkbox"/> 生態系の成り立ち <input type="checkbox"/> 生態系と種多様性 <input type="checkbox"/> 生物どうしのつながり <input type="checkbox"/> 生態系のバランス <input type="checkbox"/> 人間の生活と生態系 <input type="checkbox"/> 生態系の保全
6月 ～ 7月	1学期 期末	〈生物〉第1章 生物の進化 第2節 遺伝子の変化と多様性 第3節 遺伝子の組み合わせの変化 第4節 進化のしくみ		<input type="checkbox"/> 遺伝子と形質 <input type="checkbox"/> ゲノムの多様性 <input type="checkbox"/> 減数分裂と受精 <input type="checkbox"/> 減数分裂と受精 <input type="checkbox"/> 染色体と遺伝子 <input type="checkbox"/> 遺伝子の組み合わせの変化 <input type="checkbox"/> 進化と突然変異 <input type="checkbox"/> 集団としての進化 <input type="checkbox"/> 実際の生物集団と進化 <input type="checkbox"/> 種分化
9月 ～ 10月	2学期 中間	〈生物〉第3章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼吸と発酵 第3節 光合成		<input type="checkbox"/> 生物とエネルギー <input type="checkbox"/> 生体内の化学反応 <input type="checkbox"/> 呼吸とは <input type="checkbox"/> 呼吸の過程 <input type="checkbox"/> 発酵 <input type="checkbox"/> 光合成とは <input type="checkbox"/> 光合成のしくみ <input type="checkbox"/> 細菌の光合成
11月 ～ 12月	2学期 期末	〈生物〉第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と生物の進化 第5節 生物の系統と進化 第6節 人類の系統と進化		<input type="checkbox"/> 生物の多様性と共通性 <input type="checkbox"/> 原始地球と有機物 <input type="checkbox"/> 有機物から生物へ <input type="checkbox"/> 生物の出現とその発展 <input type="checkbox"/> 真核生物の出現と進化 <input type="checkbox"/> 生物の分類 <input type="checkbox"/> 生物の系統と系統樹 <input type="checkbox"/> 人類の祖先 <input type="checkbox"/> 人類の進化
1月 ～ 3月	学年末 考査	〈生物〉第4章 遺伝情報の発現と発生 第3節 遺伝子の発現調節 第5節 遺伝子を扱う技術		<input type="checkbox"/> 遺伝子の発現調節 <input type="checkbox"/> 原核生物の発現調節 <input type="checkbox"/> 真核生物の発現調節 <input type="checkbox"/> 遺伝子を導入する技術 <input type="checkbox"/> 遺伝情報を解析する技術 <input type="checkbox"/> 遺伝子発現を解析する技術 <input type="checkbox"/> 遺伝子を扱う技術と人間生活

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：選択者のみ

SS 理数生物（2年）

（1）予習・復習について

生物の予習、復習は、苦手な人以外は必要ありません。特に、必要な場合は、教科担当からアドバイスがあります。

（2）授業について

- ・ 2年生では、生物の教科書の 第4章 第5節まで進みます。第4節と第5章以降は3年生で学びます。（SS 理数生物選択者のみ）
- ・ 分からない箇所があったら積極的に質問をして下さい。
- ・ 授業の中で実験を行う際には、実験の方法・内容を理解した上で取り組んで下さい。

（3）実験について

生物実験を行います。実験後は、指定された様式で、プリントやレポートを提出してもらいます。実験内容を十分に理解し、その他の資料も参考にしてレポートを作成してください。提出期限厳守です。

（4）考査およびその学習方法について

考査範囲は、教科書のページと問題集の番号を伝えます。生物の学習は、教科書を理解した上で問題集を解くと良いでしょう。問題数は多いので、考査2週間前には準備を始めましょう。基本問題から発展問題まで十分に理解できれば、考査、共通テスト、個別試験に対応できる学力がつきます。

生物は用語が多く、暗記が重要に思われる傾向にあります。用語だけを必死に暗記してもなかなかできるようにはなりません。用語や教科書の模式図、イラスト等を見たときにそれらについてどれだけ周辺の知識も含めて思い出して話せるかが重要になります。用語集などを使用する場合は、単語の意味などを隠して、用語の意味や周辺知識を思い出すように行う勉強をお奨めします。

令和6年度 理数科2年生 SS物理

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS物理		2	高等学校 物理基礎 (啓林館) 高等学校 物理 (啓林館)	新課程版 セミナー物理基礎+物理
【到達目標】		① 身近な物理現象と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 ② 科学的に探究する力を育み、物理学と日常生活や社会との関わりを考えることができるようになる。		
【学習の仕方】		① 教科書の「文章」だけではなく、「イラスト」や「グラフ」、「公式」の意味を考えながら、予習・復習しましょう。 ② 積極的に問題演習をしましょう。		
【学習上の留意点】		① 問題を解くことができ、初めて内容を理解したことになります。問題が解けないうちはとても辛いと思いますが、できるまで何度も繰り返して乗り越えましょう。 ② 学習済みの内容を元に、新しい内容を学習することが多くあります。わからないことをそのままにしておくと、次々にわからなくなってしまいます。わからないことは後回しにせずに、早めに理解しましょう。 ③ 理科は“実際 (リアル)”を扱う学問です。普段の生活の中で、無意識に得られる情報を大切にしましょう。		
月	テスト	進度 (単元)		
4月 ～ 5月	1学期 中間	【第3部】 波	【第1章】波の性質 ① 正弦波の表し方 ② 波の伝わり方 【第2章】音 ① 音の伝わり方	
6月 ～ 7月	1学期 期末		③ ドップラー効果 【第3章】光 ① 光の性質 ② レンズと球面鏡	
9月 ～ 10月	2学期 中間	【第2部】 熱	【第1章】気体分子の運動 ① 気体の状態方程式 ② 気体分子の熱運動 ③ 熱力学第一法則 ④ 気体の状態変化と熱・仕事	
11月 ～ 12月	2学期 期末	【第1部】 様々な運動	【第1章】物体の運動 ① 平面内の運動 ② 落体の運動 【第2章】剛体のつり合い ① 剛体のつり合い	

1月 ~ 3月	3学期 学年末		<p>【第3章】運動量と力積</p> <p>① 運動量の保存</p> <p>② 衝突と力学的エネルギー</p> <p>【第4章】円運動と単振動</p> <p>① 円運動</p> <p>② 慣性力</p> <p>③ 単振動</p>
---------------	------------	--	--

観点別評価ルーブリック

教科 理科
 科目 物理基礎（2年生／普通科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物体の運動と様々なエネルギーについての観察、実験などを通して、物体の運動と様々なエネルギーに関する基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物体の運動と様々なエネルギーを対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
学主体的に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

観点別評価ルーブリック

教科 理科
 科目 サイエンス物理（2年生／普通科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
学主体に取的に組み込む態度	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

理科
サイエンス化学

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成・構成粒子, 粒子の結合, 物質量と化学反応式, 酸と塩基の反応, 酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。 日常生活や社会との関連を図りながら, 化学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 	小テスト 定期考査 行動観察	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成, 物質の変化とその利用について, それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。 物質とその変化を対象に, 概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり, 情報の収集, 仮説の設定, 実験の計画, 実験による検証, 実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。 	小テスト レポート 定期考査 行動観察	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ, レポート内容などを高く評価できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね、満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
学習主体に的取りに取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について対して主体的に関わり, 化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとしている。 	再テスト テスト解き直し レポート 定期考査 行動観察	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

理科
SS理数化学

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成・構成粒子，粒子の結合，物質と化学反応式，酸と塩基の反応，酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。 日常生活や社会との関連を図りながら，化学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 	小テスト 定期考査 行動観察	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成，物質の変化とその利用について，それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。 物質とその変化を対象に，概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。 	小テスト レポート 定期考査 行動観察	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね、満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
学習主体に取的に組み込む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について対して主体的に関わり，化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 	再テスト テスト解き直し レポート 定期考査 行動観察	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

理科
SS生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	・生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	・生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習に取り組む態度	・生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	①②③ 提出、内容が良好	①②③ 提出できている	①②③ 未提出

観点別評価ルーブリック

教科
科目

理科
サイエンス生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	・生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	・生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
主体的に学習に取り組む態度	・生物や生命現象について関心をもち、意欲的に探究しようとする。 ・日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に付けている。	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	①②③ 提出、内容が良好	①②③ 提出できている	①②③ 未提出

観点別評価ルーブリック

教科
科目

理科
地学基礎（2年生／普通科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	地球や地球を取り巻く環境についての観察、実験などを通して、地球や地球を取り巻く環境に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり、発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
学主体的に取り組む態度	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

観点別評価ルーブリック

教科 理科
 科目 SS理数物理（2年生／理数科）

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解する。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける。	テスト 課題提出	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。
思考・判断・表現	物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法を習得する。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力を身に付ける。	テスト 課題提出 授業態度	テストにおける該当問題が80%以上程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が良好である。 授業における該当内容の取り組みが良好である。	テストにおける該当問題が40～80%程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が普通である。 授業における該当内容の取り組みが普通である。	テストにおける該当問題が40%以下程度の得点率である。 課題における該当内容の理解が不良である。 授業における該当内容の取り組みが不良である。
学主体に取的に取り組む態度	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとするなど、科学的に探究しようとする。	課題提出 授業態度	課題における該当内容の意欲が良好である。 授業における該当内容の意欲が良好である。	課題における該当内容の意欲が普通である。 授業における該当内容の意欲が普通である。	課題における該当内容の意欲が不良である。 授業における該当内容の意欲が不良である。

5 体育（第2学年）

（1）体育の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 健康な人生を送るための体力向上
2. 自ら進んで継続して身体活動を実践するための知識と技能の習得
3. 礼節を重んじ、仲間と協同し責任を持って行動できる精神の育成

（2）2学年の学習について

1. 指導目標

- ・ 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して高度な運動技能を習得し、強健な心身の発達を促す。
- ・ 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度を育てる。
- ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できるようにする。
- ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等も学ぶ。

2. 評価について

授業態度（積極的な活動、体力の向上・技能の習得）、出欠状況、スキルテストの内容、個人・グループノートの内容、ルールやマナーの理解度を基に以下の3つの観点から総合的に評価する。

知識・技能

- ・ 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。
- ・ 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けてる。
- ・ 運動の技能の構造と運動の学び方を理解している。
- ・ 各競技のルール、練習方法、戦術について理解をしている。

思考・判断・表現

- ・ 自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考し判断している。
- ・ 課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ・ 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。
- ・ 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片づけ、施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。
- ・ 健康や安全に留意して、自ら運動をしようとしている。

3. 授業について

- 1) 単位数 普通科3単位・理数科3単位
- 2) 授業の進め方（体育実技）

授業の進め方は概ね以下の通りである。

ランニング→集合→あいさつ・点呼→体操・補強→本時の説明→「活動」→整理体操→あいさつ

3) その他

- ・4月～10月は半袖 or 長袖Tシャツ、ハーフパンツ。
- ・禁止事項：タイツ、ストッキング、アクセサリ類の着用。
- ・体育用のソックスを用意。
- ・運動制限や健康上の不安等がある場合、必ず担当教諭に相談すること。

(3) 学習内容

領域	領域の内容・単元	第1学年		第2学年		第3学年	備考	
		男	女	男	女	男女共修		
体育理論		○	○	●	●	○		
体づくり	体力を高める運動(持久走)	○	○	●	●	○		
	体をほぐす運動	○	○	●	●	○		
陸上競技	長距離走	○	○	●	●	○		
	三種競技(走・跳・投)	○	○			□※1		
水泳	各種泳法	○	○	●	●		※2	
	遠泳・競泳(複数の泳法)	○	○	●	●	□※1	※3	
武道	柔道	○		●		□※1		
器械運動	マット運動		○	●		□※1	※4	
	跳び箱運動		○	●				
	鉄棒運動		○	●				
球技	ゴール型	バスケットボール		○	●		□※1	
		ハンドボール	○			●	□※1	
		サッカー	○	○			□※1	
	ネット型	バレーボール			●	●	□※1	
		テニス					□※1	
		バドミントン					□※1	
		卓球					□※1	
	ベースボール型	ソフトボール					□※1	

※1 選択授業

※2 1年次にクロール・平泳ぎ、2年次に背泳ぎ・バタフライを行う

※3 1年次は2種類の泳法・2年次は4種類の泳法で行う

※4 3種目の運動の中から1種目または2・3種目を行う

(4) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名		副教材等		
体育		3	新高等保健体育（大修館書店）				
【到達目標】		<ul style="list-style-type: none"> 科学的な理論に基づいた合理的な実践を通して、専門的な運動技能を習得と、体力の向上がみられる。 公正・協力・責任等の態度と主体的に運動する能力と態度が身につく。 自己の能力に応じて目標を設定し達成できる。 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等を習得する。 					
学期	月	男子		女子		自己チェック項目	
		領域	内容	領域	内容		
第一学期	4月	上旬	体育理論（運動やスポーツの技術と技能・運動やスポーツの技能の上達過程）				
		中旬	体作り運動	体力を高める運動	体作り運動	体力を高める運動	
		下旬	陸上競技	持久走 1500m	陸上競技	持久走 1000m	
	5月	上旬					
		中旬	球技	バレーボール	球技	ハンドボール	
	6月	上旬					
		中旬	水泳	泳法（バタフライ・背泳ぎ）	水泳	泳法（バタフライ・背泳ぎ）	
7月	上旬		タイムトライアル（各泳法）		タイムトライアル（各泳法）		
	中旬		タイムトライアル（個人メドレー）		タイムトライアル（個人メドレー）		
第二学期	9月	上旬	体作り運動	体ほぐし運動	体作り運動	体ほぐし運動	
		中旬	器械運動	マット運動	球技	バレーボール	
		下旬		鉄棒			
	10月	上旬		跳び箱			
		中旬	武道	柔道			
	11月	上旬	体育理論（運動やスポーツの技能と体力の関係）				
中旬		陸上競技	長距離走 約5km	陸上競技	長距離走 約4km		
下旬							
12月	上旬	武道	柔道	球技	バレーボール		
	中旬						
第三学期	1月	上旬	体作り運動	体ほぐし運動	体作り運動	体力を高める運動	
		中旬	球技	バスケットボール			
	2月	上旬					
		中旬					
	3月	上旬					
	中旬	体育理論（運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方）					

(5) その他

5 保健（第2学年）

（1）保健の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための資質や能力の育成
2. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、正しく判断し行動できる能力の育成

（2）2学年の学習について

1. 指導目標

生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、及び我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。

社会生活における健康の保持増進には、環境や食品、労働などが深くかかわっていることから、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康にかかわる活動や対策が重要であることについて理解できるようにする。

2. 評価について

各学期の期末考査の得点を基準とし、以下の項目を加え総合的に評価する。

- 授業における提出物・レポート・課題・ノートの内容
- 長期休業中におけるフィールドワークレポートの内容
- 個人やグループの課題研究の内容
- 様々なレポートや研究活動の発表の内容やそれに対する評価

(3) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
保健		1	新高等保健体育（大修館書店）	
学期	月	領域	内容	備考
第一学期	4月 上旬 中旬 下旬	生涯を通じる健康	①思春期と健康	
			②性意識の変化と性行動の選択	
			③結婚生活と健康	
	5月 上旬 中旬 下旬		④妊娠・出産と健康	
			⑤家族計画	
	6月 上旬 中旬 下旬		⑥加齢と健康	
			⑦高齢社会に対応した取り組み	期末考査
第二学期	9月 上旬 中旬 下旬		⑧働くことと健康	
			⑨労働災害の防止	
			⑩働く人の健康づくり	
	10月 上旬 中旬 下旬	健康を支える環境づくり	①大気汚染と健康	
			②水質汚濁・土壌汚染と健康	
	11月 上旬 中旬 下旬		③健康被害を防ぐための環境対策	
			④環境衛生活に関わる活動	
12月 上旬 中旬	⑤食品の安全性と健康			
	⑥食品の安全性を確保する取り組み		期末考査	
第三学期	1月 上旬 中旬 下旬		⑦保健制度とその活用	
			⑧医療制度とその活用	
	2月 上旬 中旬 下旬		⑨医療品の制度とその活用	
			⑩様々な保健活動や対策	
	3月 上旬 中旬	⑪誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	学年末考査	

参考資料

高等学校学習指導要領 内容のまとめ「保健体育」

観点別評価ルーブリック

教科
科目

保健体育
体育

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題の解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。 運動技能の構造と運動の学び方理解している。 各競技のルール、練習方法、戦術について、言ったり書きだしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 体力の向上 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目を8割以上達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目を4割以上8割未満達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目が4割未満で達成できている。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断している。 課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に積極的に取り組んでいる。 自己の思考や判断について表現力が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に取り組んでいる。 自己の思考や判断についての表現力が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、課題解決に取り組むことが乏しい。 自己の思考や判断についての表現力が乏しい。
学習主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片付け、施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。 健康・安全に留意して、自ら運動をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。 授業への参加状況、学習カードの提出が良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準である。 授業への参加状況、学習カードの提出が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が乏しい。 授業への参加状況、学習カードの提出が乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

保健体育
保健

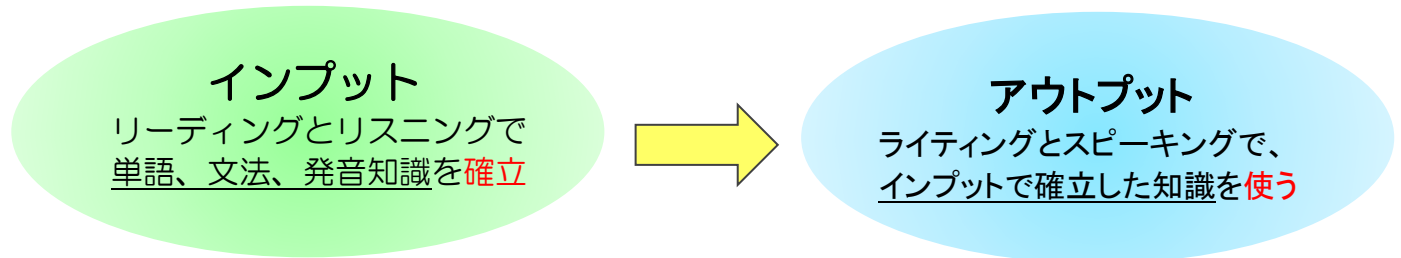
観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 個人及び社会生活における健康、安全について理解したことを言ったり書いたりしている。 ※応急手当について、習得した知識及び技能を適切に実践することができる。(1年) 	課題研究 定期考査等 心肺蘇生法 (1年)	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が8割以上達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割以上8割未満達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割未満達成できている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 健康について、自他や社会の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 	課題研究 定期考査等	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が乏しい。
学習主体に取的に組み込む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自他の健康やそれを支える環境づくり及び安全な社会の形成に興味を持ち、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 課題研究や学習活動を振り返り、その結果を考察し、評価及び改善しようとしている。 	課題研究 自己評価 他者評価	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が乏しい。

2学年英語 目標

インプットとアウトプットで「使える」英語力を育成する

目的 使える英語力が高い＝英語が聞ける、読める、話せる、書ける（4技能育成）

方法 知識を取り入れる（インプット）で終わらず、使う（アウトプット）ことを意識



①英語コミュニケーションⅡ

教科書 Heartening・学習ノート・語彙ノート・ワークブック(Advanced Exercises)・単語帳 LEAP

各定期考査2レッスンずつ進みます。

予習 ※予習をしっかりと行うこと。

①学習ノート

- ・Reading Navi を解き、内容を把握する。
- ・わからない単語や表現を調べ、精読し、内容を理解する。
- ・語彙ノートを使って単語を定着させる。（復習時も同様に行う）

授業

- ①学習ノート、ワークシートの予習の確認。
- ②ワークブックで各パートの要約やワークシートでアウトプット活動を行う。

復習

①本文音読・単語の定着

音読の効果・・・速読力だけでなく、他の技能（リスニング、ライティング、スピーキング力）に繋がります。ただ読むのではなく、ネイティブスピーカーに近い発音を意識しながら読むこと。

家庭学習

①Summary シート（提出課題）

②ワークブック Advanced Exercises（提出課題）

各考査日の放課後に集めます。各自のペースで進めてください。一部は授業で扱いますので、授業時にも持参してください。

③英単語帳 LEAP

単語テスト(Weekly Test)を行います。80%未満は再テストになります。パート3の途中から進み、1年間でもう一周取り組みます。単語の定着は毎日行っていくものであり、英語力向

上にはかせません。LEAPはWritingやSpeakingで「使いこなす」ためのActive（発信）語彙とReadingやListeningで「意味がわかる」ためのPassive（受信）語彙に分けて学習できます。

②論理・表現Ⅱ

教科書 Earthrise・ワークブック・文法参考書 Factbook・文法・語法問題集 Vintage
各定期考査3レッスンずつ進みます。

予習

①ワークブックのCheckを解く（必要に応じてPracticeA,Bも解く）

授業

- ①授業の初めにワークブックでリスニングを実施
- ②Let's speak about (Task1.2)
- ③Let's write about (Task1.2.Goal Writing)
- ④What do you think エッセイ （提出課題）

復習

- ①本文音読
- ②教科書で扱った文法をVintageで演習

家庭学習

①ワークブック （提出課題）

各考査日の放課後に集めます。各自のペースで進めてください。一部は授業で扱いますので、授業時にも持参してください。

②Vintage 文法語法問題集

テスト（Weekly Test）を行います。文法語法を1、2年生のうちにしっかり覚えることも英語学習の基本です。

③Factbook 文法書

考査で暗唱例文集が出題されます。文法語法を理解したうえで、音読しながら暗記をしてください。英語の表現力が向上します。

③BEST-CLaSS 2

Theme: SDGs, Technology, Communication Skills

Google Classroom・Worksheets・Activities・English Textbooks

予習

① Be ready to use the 4 English Skills (Listening, Speaking, Reading, Writing)

授業

- ① Warm Up: English Speaking & Listening, Conversation, Discussion, Pop Quiz
- ② Skills: Opinion Writing, Judging, Debate, Negotiation, Discussion, Facilitation

③ PBL: Global Design Laboratory: Colonizing the Moon, Imagine the Universe

復習

- ① Linking BEST-CLaSS content to other English Classes
- ② Linking to University Exams and English Testing
- ③ Linking to Global Society

家庭學習

- ① Complete unfinished assignments by the due dates.
- ② Speech Presentation Slides and Practice
- ③ Vacation and PBL Homework
- ④ Bonus Assignments (online programs, etc.)

第2学年 論理・表現Ⅱ 単位数 普通科2単位 理数科2単位

1. 目標

- ・文法などの言語材料を実際のコミュニケーションにおいて効果的に活用できる技能を身に付ける。
- ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を通して、話すことと書くことを中心としたより発展的な発信力を強化する。

2. 使用教材と用途

Textbooks			Weekly Test : 週替わりの小テスト	
EARTHRISE II Advanced	EARTHRISE II ワークブック	All EARS Standard	総合英語 FACTBOOK (暗唱例文集含む)	英文法・語法 Vintage
				
授業で主に使う教科書。	文法事項の復習用のワークブック。 <u>定期的に提出有り。</u>	共通テストや検定に向けたリスニング教材。朝学習で実施。	自分で学習するのに使う文法書。 <u>暗唱例文は各考査出題範囲。</u>	発展的な内容の文法問題集。 <u>Weekly Test 出題範囲。</u>

3. 指導計画

		Contents	言語材料	言語活動	Weekly Test
1 学期	中間	Part 1 : Lesson 1 Part 1 : Lesson 2 Part 1 : Lesson 3	さまざまな主語の形 さまざまな動詞の形 名詞のはたらきをする表現	Essay Writing Speech Conversation Retelling Debate Presentation *スケジュールは別紙	Vintage *スケジュールは別紙
	期末	Part 1 : Lesson 4 Part 1 : Lesson 5 Part 2 : Lesson 1	形容詞のはたらきをする表現 副詞のはたらきをする表現 感情を表す		
2 学期	中間	Part 2 : Lesson 2 Part 2 : Lesson 3 Part 2 : Lesson 4	助言する・忠告する／必要・義務を表す 勧誘する・提案する／依頼する 賛成する／反対する		
	期末	Part 2 : Lesson 5 Part 3 : Lesson 1 Part 3 : Lesson 2	意見を述べる／希望を述べる パラグラフの構成 例示・列挙		
3 学期	学年末	Part 3 : Lesson 3 Part 3 : Lesson 4 Part 3 : Lesson 5	比較・対照 原因・結果 時間的順序・手順		

1. 目標

- ・聞いたり読んだりしたことを理解し、その内容を踏まえて話したり書いたりして相手に伝える技能を身に付ける。
- ・総合的な言語活動を通して、5つの領域に渡す英語運用能力を伸ばす。

2. 使用教材と用途

Textbooks				Weekly Test :
				週替わりの小テスト
Heartening II English Communication	Heartening 学習ノート	Heartening Advanced Exercises	Jet Reading 英語速読テスト Level 2	必携英単語 LEAP
				
授業で主に使う教科書。 <u>予習の必要あり。</u>	予習用のノート。 <u>授業内で提出。</u>	復習用のワークブック。 定期試験出題範囲。	共通テストや検定に向けたリーディング教材。朝学習で実施。	単語帳。 <u>Weekly Test 出題範囲。</u>

3. 指導計画

		Contents	言語材料	言語活動	Weekly Test
1 学 期	中 間	Lesson 1 : Laughter without Borders (伝統芸能・対話文) Lesson 2 : The Ongoing Voyages of Curry (食文化・説明文)	未来の表現 時制の一致 前置詞	Essay Writing Speech Conversation Retelling Summarizing *スケジュールは別紙	必携英単語 LEAP *スケジュールは別紙
	期 末	Lesson 3 : The World's Most Bicycle-friendly City (環境・説明文) Lesson 4 : Can You Feel Emotions in Text? (言語・論証文)	助動詞 動名詞		
2 学 期	中 間	Lesson 5 : Background Music and Sharks (心理学・報告文) Lesson 6 : The Benefits of Play (脳科学・説明文)	不定詞 受動態		
	期 末	Lesson 7 : Nursing in a War Zone (平和・物語文) Lesson 8 : Hawaii's Debate about a Sacred Mountain (社会・意見文)	分詞構文 比較 従位接続詞		
3 学 期	学 年 末	Lesson 9 : The Next Wave in Artificial Intelligence (科学技術・説明文) Lesson 10 : What If There Were No Moon? (天文学・説明文)	関係詞 仮定法 無生物主語		

教科 外国語（英語）
科目 英語コミュニケーション 論理表現

		Filter 2 (観点)						
		知識・技能 (Knowledge & Technics)	思考・判断・表現 (Critical thinking)	主体的に学習に取り組み態度 (Attitude)	学習活動	A：「十分満足できる」 Over 80%	B：「おおむね満足できる」 80% - 40%	C：「努力を要する」 Under 40%
F i l t e r (S k i l l s)	読むこと	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語の文章を正確に読解することができる。現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を、辞書などを使わずに読解することができる。	日常な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを文章から的確に読み取り、理解することができる。		小テスト 定期考査 課題考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
		R K	R C					
	聞くこと	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語での説明文や会話文を適切に聞き取ることができる。	日常な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを的確に聞き取り、理解することができる。自然な速さの標準的な英語で話されていれば、母語話者同士の会話の要点を理解することができる。トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。		小テスト 定期考査 課題考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
		L K	L C					
	① 話し取り ② 発表	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語で発表したり、会話したりすることができる。	読んだり聞いたりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを、適切に話すことができる。自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論することができる。また、ディベートなどにおいて、論拠を並べ自分の主張を明確に述べることができる。	他者を尊重し、聞き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話すことで表現しようとしている。 言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自立的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	パフォーマンステスト 提出物 行動観察等	パフォーマンステストや授業中での発表等において、指定された評価基準に80%以上程度当てはまる。	パフォーマンステストや授業中での発表等において、指定された評価基準に40%以上80%未満程度当てはまる。	パフォーマンステストや授業中での発表等において、指定された評価基準に40%未満程度当てはまる。
		S K	S C	S A				
	書くこと	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語で文章を書くことができる。幅広い語彙や複雑な文構造をある程度使って、エッセイやレポートなどを書くことができる。	読んだり聞いたりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを、適切に書くことができる。情報や議論を整理しながら、それに対する自分の考えの根拠を示した文章を書くことができる。	他者を尊重し、聞き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを書くことで表現しようとしている。 言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自立的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	定期考査 課題考査 提出物等	該当問題80%以上程度の得点率 90%以上程度の提出率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 75%以上程度の提出率	該当問題40%未満程度の得点率 75%未満程度の提出率
		W K	W C	W A				

STEAMS TIME II

(1) 学習について

1 学年での経験を踏まえて、自身で選択した興味のある分野において、課題発見・設定を行い、1年間を通してじっくり課題研究を行います。実施形態は5つのラボ(数学・物理・化学・地学・生物)、7つのゼミ(国語・外国語・地歴公民・スポーツ・家庭科・芸術・福島復興)に所属し、自ら課題を設定し、研究活動を行う形式となります。課題研究は、自分の興味あるテーマを設定し、それを研究するものです。そのために、必要な仮説、実験計画を立て、検証し、得られたデータを整理して、そこから結論を導きだします。この過程により、授業等によって身につけた知識を応用することを学んでいきます。そして、研究結果を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上もめざします。

ここからも分かるように、課題研究は、主体的にやっていくべきものとなります。

(2) 令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
STEAMS TIME II		2	各教科の教科書	
【到達目標】		① 各自が設定した研究テーマについて、研究活動を行い、その成果を報告書等にまとめる。 ② 各自の研究成果の発表を通して、プレゼンテーション能力を身につける。 ③ 必要に応じて、大学や研究機関の協力を仰ぎ、先進的な内容に触れる。		
【学習上の留意点】		① 各自の興味関心に応じて研究テーマや活動内容を設定する。 ② 主体的な態度で活動に臨む。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期	ガイダンス 各研究に必要な技能の習得 研究テーマの設定	<input type="checkbox"/> 課題研究の手法を理解したか。 <input type="checkbox"/> 各ラボ・ゼミの活動を通して、活動に必要な技能の向上を図ることができたか。 <input type="checkbox"/> 主体的に研究テーマを設定できたか。	
6月 ～ 7月	1学期	検証実験開始 各研究に必要な技能の習得	<input type="checkbox"/> 実現可能な実験計画を策定することができたか。 <input type="checkbox"/> 仮説と検証実験の内容に整合性があるか。 <input type="checkbox"/> 活動に必要な技能の向上を図ることができたか。 <input type="checkbox"/> 実験結果を踏まえ、新たな方向性を模索することができたか。	
9月 ～ 10月	2学期	中間発表 検証実験の見直し 研究活動	<input type="checkbox"/> ポスターを作成し、他者にわかりやすく発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 実験結果に基づいた、客観的な結果になっているか。 <input type="checkbox"/> 研究内容は、論理的に正しいか。	
11月 ～ 12月	2学期	研究活動 プレゼンテーション資料の作成	<input type="checkbox"/> 得られた結果を考察することができたか。 <input type="checkbox"/> 研究目的・方法・結果など分かりやすくまとめたポスターを作成することができたか。	
1月 ～ 3月	3学期	研究発表 (口頭発表) 最終資料の作成	<input type="checkbox"/> 発表スライドを作成し、他者に分かりやすく発表することができたか。 <input type="checkbox"/> 指摘された事項を踏まえ、最終資料を作成することができたか。	

※芸術に関する内容は次ページ以降を参照してください。

音楽

1 音楽Ⅱ (STEAMS)

「音楽Ⅰ」の学習を基礎にして、資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することがねらいです。

2 目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指します。

3 評価の観点

- 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的及び多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする
- 2 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする
- 3 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う

4 2学年の学習内容

【表現】

歌唱・器楽・創作

- ・表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに表現を創意工夫する
- ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり、その表現上の効果を理解する
- ・曲種に応じた奏法との関わり、その表現上の効果を理解する
- ・様々な表現形態による表現の固有性や多様性を理解する
- ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技術を身に付ける

【鑑賞】

- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴く
- ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解を深める

5 その他

- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考える
- ・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解する

第2学年

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
音楽Ⅱ (STEAMS)		2	MOUSA②	My Song
【到達目標】		① 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせられるようにする ② 生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する		
【学習上の留意点】		① 授業への取り組みや提出物も重視しています ② 期考査は実施しませんが、授業内に実技テストや発表があります		
月	テスト	進度 (単元)		自己チェック項目
4月～ 5月	1学期 中間 未実施	≪表現≫ 歌唱 器楽 ≪STEAMS≫		<input type="checkbox"/> 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに表現を工夫したか <input type="checkbox"/> 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり、その表現上の効果を理解したか <input type="checkbox"/> 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、その表現上の効果について理解したか
6月～ 7月	1学期 期末 未実施	≪表現≫ 西洋音楽 音楽を織りなす様々な要素 ≪STEAMS≫		<input type="checkbox"/> 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさを味わって聴いたか <input type="checkbox"/> 音楽を織りなす様々な要素について理解を深められたか
9月 ～ 10月	2学期 中間 未実施	≪表現≫ 歌唱 器楽 ≪STEAMS≫		<input type="checkbox"/> 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、個性豊かに表現を工夫したか <input type="checkbox"/> 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり、その表現上の効果を理解したか <input type="checkbox"/> 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、その表現上の効果について理解したか
11月 ～ 12月	2学期 期末 未実施	≪鑑賞≫ 西洋音楽 さまざまな主題とその構成を聴き取ろう ≪STEAMS≫		<input type="checkbox"/> 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさを味わって聴いたか <input type="checkbox"/> 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解したか
1月 ～ 3月	3学期 学年末 未実施	≪鑑賞≫ 詩と音楽が織りなす表現を味わおう ≪STEAMS≫		<input type="checkbox"/> 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさを味わって聴いたか <input type="checkbox"/> 詩と音楽の関係性に着目し、作曲家の工夫や表現を味わえたか

芸術科

美術

1 美術Ⅱ

社会を見渡せば美術に関連した仕事や商品などがたくさんあります。

では、なぜ学ぶのだろうか。美術を学ぶ意味は、作品を描き作ることを通して「人間を知ること」です。例えば、文学でも歴史学・経済学でも人間を研究する学問であり、また理数系も自然界の法則について研究する物理や化学や数学や薬学などありますが人間の体内での化学変化などを調べているわけです。分野や方法は違っても人間を知ることには変わりはないのです。美術を通して試行錯誤を繰り返し、自分と向き合ってみましょう。

美術Ⅱは、幅広い美的体験の上に立ち、創造的な美術の諸活動を通して、自然や自己、社会などを深く見詰め表現する能力や、美術作品を多様な視点から分析し理解したり、心豊かな生き方にかかわる美術の働きを理解したりするなどの鑑賞の能力を伸ばすことをねらいとしています。

2 目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3 評価の観点

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に取り組む態度

4 2年次の学習内容

(1) 【デザイン】

- ア 自然、自己、社会などを深く見詰め、生活を美しく豊かにするデザインの働きを考えて主題を生成すること。
- イ 目的や条件などを基に、デザイン効果を考えて創造的で心豊かな表現の構想を練ること。
- ウ 主題に合った表現方法を工夫し、創造的に表現すること。

5 その他

○美術系及び建築系への進学を考えている者は、実技試験や作品が必要になるので早めに実技対策に取り組んでください。

第2学年

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
STEAMSTime II 美術		2	高校生の美術2 (日本文教出版)	
【到達目標】		①視覚伝達デザインを通して自己とのかかわりで対象をとらえ、心豊かな生き方を実現するためのデザインの能力や態度を学びます。		
【学習上の留意点】		①授業時間ごとの取り組みや提出物を重視しますので、毎時間完結するつもりで受講してください。 ②中間及び期末テストは実施しません。		
月	テスト	進度 (単元)		自己チェック項目
4月～ 5月	1学期 中間 未実施	《作品制作》 (探究/創作) デザイン「地域PRポスター」 《調べ学習》 美術に関するテーマ		<input type="checkbox"/> デザインについて鑑賞し、学ぶことができたか。 <input type="checkbox"/> 街の調査をし、企画に結び付けることが出来たか。 <input type="checkbox"/> 企画内容をグループで話し合い、アドバイスを活かしたか。 <input type="checkbox"/> PR 企画を考えることができたか。
6月～ 7月	1学期 期末 未実施	《作品制作》 デザイン 「キャラクターデザイン」 《調べ学習》 美術に関するテーマ		<input type="checkbox"/> キャラクターのテーマを理解し、アイデアを工夫できたか。 <input type="checkbox"/> タブレットのイラスト機能を使えたか。 <input type="checkbox"/> オリジナルキャラクターを作成できたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間 未実施	《作品制作》 (探究/創作) デザイン「地域PRポスター」 《調べ学習》 デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> マーケティングをし、企画に活かしたか。 <input type="checkbox"/> 地域 PR のためのコピー (文案) を考えることができたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末 未実施	《作品制作》 (探究/創作) デザイン「地域PRポスター」 《調べ学習》 デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> イラストを考え工夫できたか。 <input type="checkbox"/> レタリングの基本を理解し、作成できたか。 <input type="checkbox"/> 構図を検討し、イラストが表現に生かされているか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末 未実施	《作品制作》 (探究/創作) デザイン「地域PRポスター」 《調べ学習》 デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> コピーのレイアウトを理解できたか。 <input type="checkbox"/> 作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 着色効果を学び、ポスターに活かしたか。 <input type="checkbox"/> 雑誌のレイアウトを学んだ上で、制作の振り返りをポートフォリオにまとめられたか。 <input type="checkbox"/> ポートフォリオにまとめたことを発表で来たか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

音楽
音楽II STEAMS

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	表現 鑑賞 発表 提出物	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 7割以上達成できている	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 4割以上7割未満達成できている	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 4割未満達成できている
思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	表現 鑑賞 発表 提出物	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 7割以上達成できている	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 4割以上7割未満達成できている	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 4割未満達成できている
主体的に学ぶ態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	表現 鑑賞 発表 提出物	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 7割以上達成できている	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 4割以上7割未満達成できている	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 4割未満達成できている

観点別評価ルーブリック

教科
科目

美術
STEAMSTime II 美術

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができている。	・デザイン制作 ・探究／発表	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が4割未満で達成できている。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができている。	・デザイン制作 ・鑑賞 ・探究／発表	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が4割未満で達成できている。
学主体に的取りに取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われている。	・デザイン制作 ・鑑賞 ・探究／発表	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が4割未満で達成できている。